

2019年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

平成31年3月6日

小松市長

和田慎司

提案全体のタイトル	国際化時代にふるさとを未来へつなぐ「民の力」と「学びの力」 ～PASS THE BATON～
提案者	石川県小松市
担当者・連絡先	

# 1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

## 1.1 将来ビジョン

### （1）地域の実態

◎平安時代、律令国家最後の国として 823 年加賀国が立国（国府は小松市古府町と推定されている）。以降、約 1200 年余りの悠久の歴史は、一向一揆体制をはじめ、町人文化、ものづくり産業など「民の力」により連綿と引き継がれてきた。「民の力」は、未来を明るく照らしふるさとを次代へとさらにつなぐ光であり、「民の力」は「学びの力」によりその光を一層輝かせる。

◎私たち小松市は、この 2 つの力を SDGs 推進の両軸として、国際化の波に対し、強みを活かして経済・社会・環境の好循環を生み出し、地方のモデルとなる国際都市として創生していく。

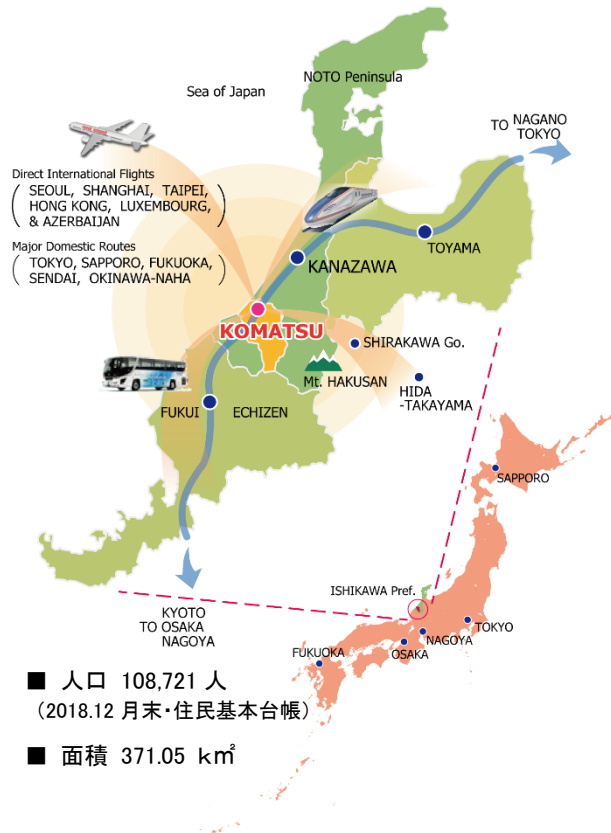
### （地域特性）

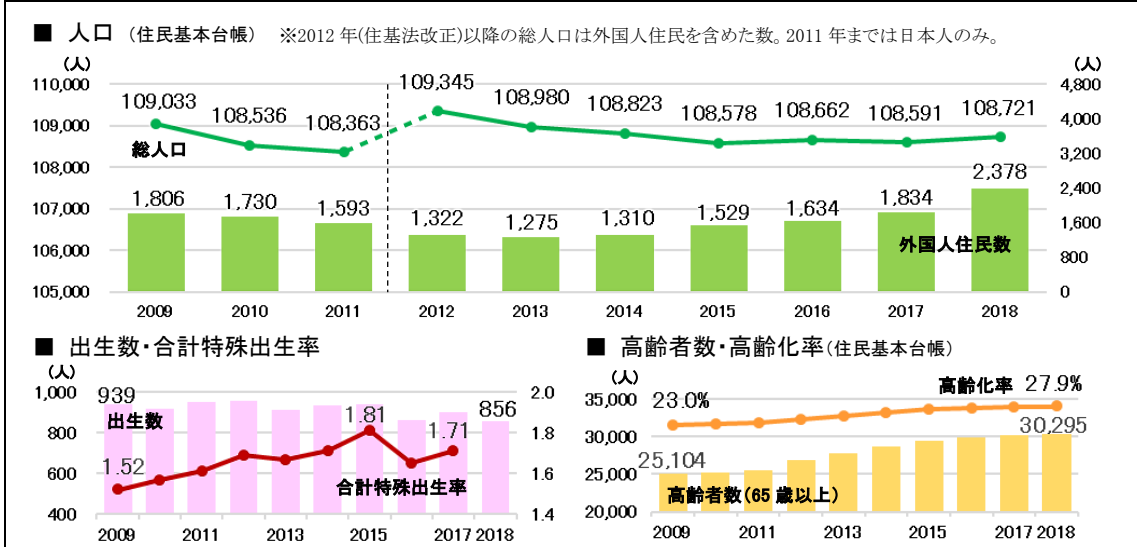
#### ○日本の真ん中の 10 万都市

本市は、石川県西南部に広がる加賀平野の中央に位置。東に日本三名山の霊峰白山を望み、標高 1,368m の大日山の頂きから日本海に至るまで、山岳地から里山、平野部、河川や海浜、そして、太古の地形のままの潟湖「木場潟」など、日本の地理的特徴とともに、四季明瞭な気候による自然やまちの移ろいを感じられる、「日本」を凝縮した都市である。

人口は、全国自治体の標準的規模である 10 万 8 千人であり、過去約半世紀の間、その規模はほぼ一定である。また外国人住民も多く、近年は増加傾向となっている。

市域の約 7 割が山林や里山地域である一方で、石川県加賀地方南部の中心市として、市街地には国・県などの広域の機関や都市機能が集積している。





### ○たゆまぬものづくりの歴史、全国トップクラスの住環境

歴史を遡れば、約 2 万年前から人が集住し、弥生時代には広域の一大拠点として都市形成されるとともに、生産する鉄器等は全国へ流通。そして、百万石の加賀藩藩政期の殖産興業と文化振興により、ものづくり産業と町人文化が栄え、九谷焼や曳山子供歌舞伎など現在の伝統産業・文化に深く息付いている。

また、県内一の米どころである一方、明治期からの鉱工業の発達で、現代の世界的建設機械メーカーをはじめとしたものづくり産業の集積を導いており、本市は県全体(約 3 兆円)の製造品出荷額(※1)の約 2 割のシェアを占める産業都市である。

一方、職住近接で安心して子育てできる地域社会が形成されていることで、あらゆる世代・性別の就労は全国に比べ大変高く(※2)、家族 3 世代・4 世代での住まいも多い(※3)。また、教育に対する関心も高く、幼児期から国際理解、理科科学、自然や伝統文化など様々な学習機会が提供されている。こうしたことから、東洋経済新報社の「住みよさランキング」でも全国トップクラスに位置(※4)している。

(※1) 本市の製造品出荷額は石川県内で第 1 位、北陸 3 県では富山市に次ぐ第 2 位。

(※2) 例:20~64 歳女性就業率 78.3%(全国平均 69.2%、2015 年国勢調査)

(※3) 3 世代世帯人員比率 22.2%(全国平均 12.2%2015 年国勢調査)

(※4) 総合順位は直近 5 年連続 50 位以内、10 万人規模の都市では第 5 位(2018 年)。

### ○北陸と世界をつなぐ交差点

3 大都市圏とほぼ等距離の、日本の中央に位置するとともに、本市の大きな特長の一つである本州日本海側最大の小松空港が立地。国防の要所である航空自衛隊小松基地との共用飛行場であり、旅客と貨物で世界 5 都市(2019 年 4 月より 6 都市に拡大)とつながる国際線は、近年飛躍的に利用が伸びており、海外に対する感覚的な近さと実際の出入りが盛んな地域である。さらに 2023 年春には、北陸新幹線が金沢から西へ延伸し、小松

駅が開業予定であり、ビジネス・交流のさらなる拡大への期待が高まっている。

かねてより、ものづくり産業を中心にグローバル展開が図られていることから、ブラジル等南米を中心とした日系外国人の居住と多文化共生への理解度は他地域に比べ高く、海外の交流都市も数多い。また、近年では、アジア圏を中心とした外国人住民やインバウンドも過去最高を数えており、今後も本市のグローバル化は一層の進展が想定される。

### ○まちの成長を支える「民の力」

本市の成長を支えているのは、昔も今も産業力や市民力、地域力といった「民の力」が大きい。技術力に優れたものづくり企業を始めとする経済界のネットワーク、市内全域の 246 町全てで町内会が組織されており、自主防災組織の結成は 100%、全ての小学校区には地域活動の拠点となるコミュニティ施設がある。市民や企業等による民間の国際交流団体による外国人支援のもと、外国人住民の防災士の取得や防災チームも結成されている。

また、市民による茶道や華道などの日常的な文化芸能活動、防犯・防災、交通安全、スポーツ、美化活動や健康づくりまで、市民や地域ぐるみの活動が大変活発であり、こうした「民の力」が本市の活力の源泉である。

### (今後取り組む課題)

#### ○シンボル「木場潟」の再生

本市の中央部に位置し、太古のままの地形を残す木場潟は、本市を代表する自然景観である。しかし、高度成長期以降の農業生産拡大に向けた周辺湖沼の干拓や、農業・生活様式の変化によ



環境再生に挑むシンボル「木場潟」

り水環境は悪化。1990 年には、水質の有機汚濁度を示す COD 値(化学的酸素要求量)が全国 181 の湖沼中ワースト 2 位(13mg/l[環境基準値は 3.0mg/l])となった。また希少な水生動植物等の生息も減少した。

一方 1982 年、湖畔に県営公園が開設される動きを前に、公園に相応しい水環境を取り戻すため、周辺住民が立ち上がり清掃活動や家庭排水の対策など地道な取り組みが始まった。それが礎となり、市民団体や農業者、そして今日では行政や企業、そして大学研究者等が加わり、地域と産学官の一体による活動へと広がりを見せている。

また 2015 年、木場潟を会場に三大行幸啓の一つ第 66 回「全国植樹祭」が開催され、両陛下御臨席のもと、数多の市民らとともに自然の尊さと次世代への継承を誓い合った。

さらに、湖畔を周回できる健康づくりのウォーキングコースが設けられるとともに、潟の地形を活かした、カヌー競技の拠点(NTC 強化拠点にも指定)として、国際大会や 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿(全国最多級の 6 カ国のホストタウンに登録)など、ウォータースポーツの国際舞台としての活用も進んでおり、世界から注目される本市の顔として、美しい水辺の復活は大きなテーマとなっている。



全国植樹祭の前年には、湖畔約7キロをつなぐ市民1万5千人の輪で美しい木場潟の復活を誓った

### ○グローバル時代にたくましい産業の創生

ものづくり産業の発展は本市の持続的成長のための基幹エンジンである。しかし、人口減少と人口構造の変化により、現在、人手不足が顕在化しつつある。産業の高度化による生産性向上はもとより、女性もシニアも働ける環境づくり、将来のものづくり産業を担うイノベーション人材やグローバル人材の育成を進め克服していかなければならない。

他方、国では、今後の人手不足への対応を念頭に、2018年12月「出入国管理法」が改正された。今後外国人住民の増加が一層見込まれる本市では、地方自治体の役割として外国人就労者とその家族が安心して「働く・学ぶ・暮らす」体制づくり、国際理解の拡大、多文化共生社会の構築を早急に進めることが必要である。この動きが、法改正の趣旨と意義を高め、持続可能な社会の確立につながるものと理解している。

また農林業は、高齢化が進むとともに、自然環境の保全と自然災害リスクの低減、鳥獣被害(※)の緩衝地帯の維持など、多様な観点から、そのあり方を変える必要を認識。環境と共生しながら、世界的ものづくり企業のノウハウを活かした産業の高度化と6次産業化、高付加価値作物の生産、また、食文化を活かしたインバウンドやアウトバウンドの拡大、間伐材の活用などで、所得向上を目指し、持続的な農林業の形成と地方に残る日本の原風景を後世に引き継ぐことが必要である。これらを認識し、実行していく人材の育成が急務となっている。

(※) 例えばイノシシによる作物被害額は10年前の約2倍に拡大。

### ○時代の局面に必要な「学び」と「民の力」

これまで本市の発展を支えてきた地域力は、高齢化や都市のスポンジ化などの社会変化とともに減退の懸念がある。人類史上類を見ない速さで進行する高齢化に対応し、持続可能な地域社会を構築することが、世界に示すべき日本の役割であり、そのために、国際化の波、つまり外国人も含めたあらゆる「民の力」を結集して、その実現を果たすことが一つの方策と考える。大学との研究と自らの「学び」による健康長寿づくり、そして、「民の力」が発揮されやすい自主自立性の高い地域コミュニティ創りがその鍵になると捉えている。

## (2) 2030 年のあるべき姿

◎小松市は、2015 年 9 月に国連サミットで採択された SDGs に歩調を合わせ、2016 年 3 月、本市最上位のまちづくりの理念となる「ふるさとこまつを未来へつなぐ条例 ～PASS THE BATON～」を、市議会議決を経て制定した。

◎また SDGs 採択と同年同月、SDGs の精神を踏まえ、これからの時代変化を見通し本市の長期構想「小松市都市デザイン」を、同じく市議会議決を経て制定。

SDGs の理念は、こうした本市のまちづくりの基本精神と深くリンクして展開している。

### 【2030 年のあるべき姿】

かねてより本市では、時代変化を見通し、変化を先取りした概ね 10 年後のまちの将来イメージを「10 年ビジョン」と冠し市民に分かりやすく示してきた。そして 2015 年、SDGs の歩みとともに、長期構想の制定とともに、構想を具現化した「NEXT10 年ビジョン」を策定し、明るく持続可能な未来に向けたまちづくり・ひとづくりの将来像を描いた。

そして、10 年ビジョンの未来像をバックキャストイングして、ビジョン実現に向けた各種取り組みの行動計画を「アクションプラン」に取りまとめ、かつ本市の地方版総合戦略である「こまつ創生総合戦略」と整合を図って政策展開している。

(計画体系は【1.3 推進体制－(1)各種計画への反映】で詳述。計画内容は添付資料参照)

これからは、日本全体の各分野でグローバル化が一段と進展する。地方でもこの国際化の波をチャンスと捉え、あらゆる領域を変革していくことが、大きな活路となる。

NEXT10 年ビジョンでは、4 つのまちづくりテーマを掲げており、2030 年は、それらを実現、そしてさらに高めるための取り組みを展開し、日本の真ん中、アジア圏とも近く、空港や新幹線が立地する際立った特長と、地方が織り成す日本の良き自然や文化、人間性を大いに発揮して、地方における「国際都市」を創り上げ、地方創生にも資する持続可能な成長モデルを築いていく。

### [4 つのまちづくりテーマ]

#### 1 日本ー「おもしろい」まち

##### ～Revolution (レボリューション)～

◎空・陸・海(小松空港、北陸新幹線、広域道路網、金沢港など)で国内外と結ばれる大交流時代に、本市の高いアクセス力と受け継がれた文化などの地域資源を活かし、人材育成やビジネス、観光で、人・モノ・文化がグローバルに



“Komatsu International Airport”  
(NEXT10 年ビジョンイメージ例 [以下同])

対流する。空港や駅周辺には広域的な都市機能が立地し、海外との往来が多い地方の国際都市として、まちが新しい姿に進化している。

## 2 日本一「たくましい」まち

### ～Innovation（イノベーション）～

◎創造とサイエンスに富んだものづくりをはじめとした本市の成長のエンジンである「産業」は、Society5.0の実現により高度化が進展。マーケットは海外にも広がり、女性も誰もが活躍できる産業が創生している。同時に、ICTをはじめとした新技術が「まち」をもっと便利に、もっと安心、もっと楽しくしている。



未来技術で産業は高度化・効率化

◎農林水産業やグリーンビジネスなど豊かな自然環境と産業が調和して、まち・ひと・地球にやさしいスマートシティを形成し、次世代に引き継がれていく。

## 3 日本一「こちよい」まち

### ～Renaissance（ルネサンス）～

◎予防先進を合言葉に、仕事や趣味、社会貢献での健康長寿が伸長。市民の共助と健康や医療、福祉などのネットワークで、3世代、4世代家族みんなが安心・快適に暮らす地域社会が形成されている。



◎小松の悠久で豊かな自然（花・水・樹）と美しい水郷「木場潟」は北陸を代表する景勝地に景観がさらに生まれ、人々の心を豊かにし、ツーリズムやスポーツ、学術などで、国内外からの評価と交流が育まれている。

## 4 日本一「はつらつ」としたひととまち

### ～Active（アクティブ）～

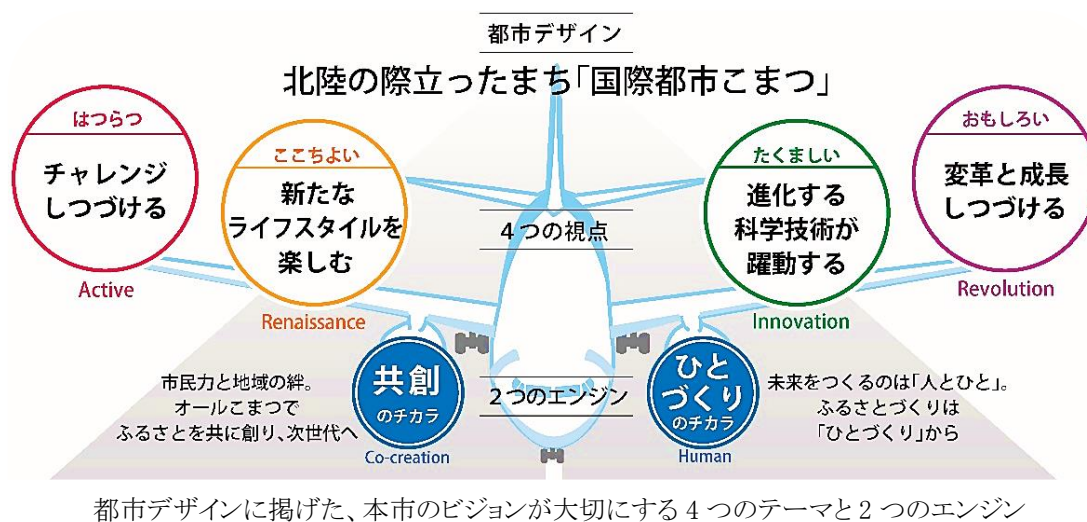
◎幼少期からシニアまでの切れ目ない人材育成体制と、理科科学や国際交流などの特色ある学び、そして外国人家族も安心して学び働き暮らす仕組みが構築され、人びとがふるさとや世界で輝き躍動している。



◎国際系、ものづくり系、医療保健系という本市





子どもからシニア、外国人も集まり交流と学びが活性化。絆も強まる

の特性をさらに強める教育研究を実践する市立大学では、未来を担う人材が育つとともに、老若男女全ての市民の学びの提供も実践され、たゆまない「ひとづくり」により本市の人々とまちははつらつとしている。



(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、ターゲット番号	KPI(案)	
 <b>2, 2.3</b>	<b>指標：農林水産業高度化指数</b> ※米の直販率や酒米の作付面積、生産ロスの低減、農家所得など付加価値向上を測る指標より集計し、市独自に設定予定	
 <b>5, 5.c</b>	<b>女性就業率</b> ※国勢調査(就業者÷[労働力人口+非労働力人口])より市算出 現在(2015年): 53.8%      2030年: (100%に向けた数値を検討中)	
 <b>8, 8.3</b>	<b>指標：若者、シニア、女性等の就業率</b> ※国勢調査より市算出 現在(2015年): (例) 65歳以上 26.3%      2030年: (向上を目指す数値を検討中)	
 <b>9, 9.2 9.3</b>	<b>指標：一人当たりの製造品出荷額</b> ※工業統計・経済センサス(製造品出荷額等÷従業者数)より市算出 現在(2016年): 3,598万円/人      2030年: (向上を目指す数値を検討中)	



○ゴール 2:

農林業の振興、特に里山地域での農林業の高度化とブランド化の追求は、自然環境の保全や災害リスクの低減、更にイン/アウトバウンドの契機を活かした成長産業への転換手段となり得るため、相応の指標により、ターゲット、そしてゴールへの到達状況を測る。





○ゴール 5、8、9:

本市のたくましい産業力の源は技術力の高いものづくりであり、世界規模でビジネス展開する企業の立地を活かして、北陸全体の成長をリードする産業集積地としての強みを増していくことが、グローバル時代の下での地方創生につながる。

その上で、農林業を含むあらゆる産業の生産性向上と、女性や外国人も含めた多様な人々のセンスや活力が発揮される就労機会の拡大は、生産年齢人口の減少が進む日本にとり重要な成長要素であり、このまちの持続的成長の礎となる。

そこで、人々の活躍そして産業革新等に伴う生産性向上を測り、目標達成に向けた取り組みを進める。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)	
 <b>3, 3.4</b>	<b>指標：いきいきシニア率</b> ※75歳以上で介護認定を受けていない人の割合	
	現在(2019年1月): 68.6%	2030年: (2025年75%を目標としており、より高い目標値を検討中)
 <b>4, 4.7</b>	<b>指標：はつらつ市民数</b> ※市立大学(公立小松大)のリカレント受講生、こまつ市民大学修了生など、はつらつと学ぶ人数等より市独自に設定予定	
 <b>10, 10.2</b>	<b>指標：多文化共生リーダー数</b> ※外国人住民を支える小松市国際交流協会の会員数等より算出	
	現在(2018年4月): 364 会員(個人・企業)	2030年: (向上を目指す数値を検討中)
 <b>16, 16.6</b>	<b>指標：「幸せへの道しるべ」総合得点</b> ※市民の「主観的幸福感」や暮らし・健康分野等の他市比較など60項目以上を独自指数化した合計点	
	現在(2016年調査): 393.1 点(満点 600 点)	2030年: (向上を目指す数値を検討中)

○ゴール 3、4:





人口減少だけでなく、世界が経験したことのない速さで進行する超高齢時代には、総人口や年齢別人口以外に着眼した目標設定が必要。本市では、「学び」や「予防」などの取り組みを進めるべく、生涯学習を含む学びの推進や介護状態にならない元気なシニアの割合を測定・高めていくことで、地域の活力維持と社会の持続性向上に通ずると捉えている。

○ゴール 10、16:

量的社会から質的社会への転換が加速し、また、ライフスタイルが日々変化する今日、「主観的幸福感」の追求は、昔も今もこれからも我々にとり最も重要なテーマである。

合わせて、外国人家族にとって「働き・学び・暮らし」やすい仕組みが確立し、住民の増加のみならず、日本人・外国人が分け隔てなく地域に共生する姿が「国際都市」の特性と考え、多文化共生を推進する市民リーダーの活躍を高めていく。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)			
 <p>6, 6.6</p>	<p>指標: <b>木場潟 COD 値</b>  <small>Chemical Oxygen Demand</small>                      ※水質の有機汚濁度を示す化学的酸素要求量</p> <table border="1" data-bbox="488 1227 1334 1323"> <tr> <td data-bbox="488 1227 911 1323">                             現在(2017年・75%値): 8.6 mg/ℓ                         </td> <td data-bbox="911 1227 1334 1323">                             2030年: 環境基準値 3.0mg/ℓ以下                         </td> </tr> </table>		現在(2017年・75%値): 8.6 mg/ℓ	2030年: 環境基準値 3.0mg/ℓ以下
現在(2017年・75%値): 8.6 mg/ℓ	2030年: 環境基準値 3.0mg/ℓ以下			
 <p>12, 12.5</p>	<p>指標: <b>リサイクル率</b>                      ※年間の一般廃棄物排出量に占める資源回収量の割合</p> <table border="1" data-bbox="488 1424 1334 1563"> <tr> <td data-bbox="488 1424 911 1563">                             現在(2017年度): 21.5%                         </td> <td data-bbox="911 1424 1334 1563">                             2030年度: (2025年 33%を目標としており、より高い目標値を検討中)                         </td> </tr> </table>		現在(2017年度): 21.5%	2030年度: (2025年 33%を目標としており、より高い目標値を検討中)
現在(2017年度): 21.5%	2030年度: (2025年 33%を目標としており、より高い目標値を検討中)			
 <p>14, 14.5</p>	<p>指標: <b>砂浜面積など海浜保全指標</b>                      ※環境活動や養浜等の海浜の保全に関する指標を設定予定。                      縮退傾向にある浜辺の維持や海浜環境向上を目標とする予定</p>			
 <p>15, 15.1</p>	<p>指標: <b>生態系回復指数(2019~2030年合計数)</b>                      ※希少生物等の発見や生物個体数の増加など、豊かな多様性の進展を測る指標として市独自に設定予定</p>			

○ゴール 6、14、15:

木場潟の復活へ、環境基準値を見据えた水質改善と生物に関する指標を掲げ、多様な

環境活動を展開し、よりよい形で環境共生のシンボルを次世代に引き継ぐ。

また、その取り組み方を海岸や河川、市街地など市内各所にも展開することとし、例として海岸の保全を環境推進の大きな指標の一つとする。

#### ○ゴール 12:

培われた市民の環境意識(※)と、増加する外国人住民とともに、地域総ぐるみのごみ減量化やリサイクル、環境美化に取り組むとともに、ゼロエミッションへの行動を実践する。

また、外国人住民には本市で身に付けた環境意識・活動を、母国等での水平展開を促し、地球規模での環境改善を推し進める機会にもつなげていく。

(※) 1997 年冬、日本海での外国船重油流出事故により本市海岸にも重油漂着が確認。




しかし、市民数千人のボランティア活動により海岸は見事に再生した。

また、本市ではかねてから、スイカの皮を天日干しし、水気を切ってから廃棄する習慣などもある。

## 1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

### (1) 自治体SDGsの推進に資する取組

#### ① 国際化時代へ、たくましい産業を創生

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)	
 <b>5, 5.c</b>	<b>女性就業率</b> （定義は前掲） ※なお国勢調査は5年毎の集計(2020年・2025年)と推察されるため、就業構造基本調査「女性有業率(南加賀圏域)」も参考に2021年の状況を推計する(2017年調査 57.1%)	
	現在(2015年): 53.8% <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>2020年: 60%</td> </tr> <tr> <td>(2025年: 65%)</td> </tr> </table>	2020年: 60%
2020年: 60%		
(2025年: 65%)		
 <b>8, 8.3</b>	<b>指標: 新産業創出等による新規就労者数</b> ※創業支援ネットワークや市制度等による経営者の育成人数や創業者数より設定	
	2019～2021年度の3カ年合計: 300人	
 <b>9, 9.2</b>	<b>指標: 一人当たりの製造品出荷額</b> （定義は前掲）	
	現在(2017年): 3,598万円/人 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>2021年: 4,000万円/人</td> </tr> </table>	2021年: 4,000万円/人
2021年: 4,000万円/人		

本市のたくましい産業を未来に向けて成長させていく。しかし足元では、人口減少や高齢化等の影響による人手不足が顕在化する一方、入管法の改正を始めとした外国人就労の高まりなどで、雇用環境は大きく変化している。また、Society5.0に向けた技術革新で、生産方式等はダイナミックかつ急速な進化を遂げている。

※次章のモデル事業では、民間の大きな力で進む産業変革の波を、農業や中小などあらゆる産業で引き起こしていくためのインセンティブ政策を展開する。また、外国人住民の円滑な就労促進にも取り組む。

#### ◎産業革新の推進

本市には、世界の第一線で活躍する企業群が立地し、省力化・無人化・環境負荷軽減、さらには農林業の自動化に向けた技術の応用などの革新技術の導入や開発が進められている。引き続き、企業の事業展開が円滑に進むよう、物流・人流アクセス向上に資する空陸海のアkses機能強化(北陸新幹線の整備推進や空港機能の増強、港湾や広域エリアとつながる道路交通など)や、新たな産業立地(国等と連携した空港周辺ゾーンの高度利用など)によるイノベーションの促進等を図る。

◎誰もが活躍する就労環境づくり



多様な視点やセンスの発揮は、企業活動にもよりよい刺激をもたらす。例えば、農林業の高度化とともに、生み出される商品の企画・デザイン・広告、それを活かした料理など、女性ならではの多様なセンス等が大いに活かされている(※)。そこで、女性を始めとしたあらゆる人々の就労意欲を高め、チャレンジできる環境を創る。

具体的には、スモールビジネス(プチ起業)や資格取得など、就労の動機や発想性を高める創業塾や経営者セミナー、資格取得支援などに取り組む。また、ワークライフバランスの促進を図る事業所への顕彰を行うなどにより、企業の職場改善を促進する。

(女性の創業塾・セミナー実施に関して、地方創生推進交付金[継続事業]活用予定)

(※) こうした創造的職種は、近い将来での AI 等による代替可能性も低いとされる。

② 里山ビジネスの高度化とブランド化

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)	
 <b>2, 2.3</b>	指標: <b>農林水産業高度化指数</b> (定義は前掲) ※前掲【1.1 将来ビジョン】の KPI のうち、2019~2021 年の 3 カ年 について市独自に設定予定	
 <b>9, 9.3</b>	指標: <b>6 次産業の一人当たりの製造品出荷額</b> ※工業統計・経済センサス(製造品出荷額等÷従業者数)のうち、 食料品製造業分について市算出	
	現在(2016 年): 1,178 万円/人	2021 年: 1,500 万円/人

農林業や里山地域の多面的機能の維持・発揮は、山岳地から海浜まで広がる本市の国土保全、多様な生態系、人々のレジャー・レクリエーションなど、多くの恵みをもたらす。これら日本の原風景と言える地域の姿と営みを、将来世代にもよりよい状態で引き継げるよう、国際展開も見据えた農林業の高度化や 6 次産業化による付加価値向上、里山ツーリズムの拡大等による関係人口の増加や新たな産業創出を進める。

※モデル事業では、食用米から酒米への転換と新たな酒造事業による、地元農家と酒造が連携した 6 次産業化や、有害鳥獣のジビエ産業化を進める。

◎未利用品に着目した農林業の高度化

林業における間伐材を木質バイオマスチップに加工し、市内大規模事業所や公共施設


のボイラー燃料に利用して、未利用材の活用とカーボンニュートラルのエネルギー利用を進めている。この取り組みを、他の事業所や家庭等に普及展開(市で導入支援を実施)し、再生可能エネルギーの活用による産業振興と環境負荷軽減を両立していく。

#### ◎里山での「関係人口」拡大

本市は、2016年に「珠玉と石の文化」が日本遺産に認定、2017年に「SAVOR JAPAN」の認定などを契機として、採石場や鉱山跡地の産業観光拠点化や里山地域でのインバウンド拡大に向けたメニュー開発を進めてきた。そして、首都圏等から若者等が移住・来訪し多様な人々との交流事業を展開するなど、新しい「ひとの流れ」も生まれてきている。

今後は、空き古民家を活用・改修した農泊体験や宿泊施設の提供など、国内外からのショート・ミドル・ロングでの滞在促進に取り組み、さらに加速させていく。

### ③ 予防先進の政策展開で超高齢時代に対応

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)	
 <b>3, 3.4</b>	指標: <b>いきいきシニア率</b> (定義は前掲)	
	現在(2019年1月): 68.6%	2021年: 71.5%

本市では、健脚推進ボランティア、食生活改善推進員、いきいきサロンなど、健康増進に関する数多くのボランティア団体と地域単位での自主的活動が盛んに行われている。

また、認知症の方とその家族の協力者として全国で普及が図られる「認知症サポーター制度(オレンジリング)」では、総人口に占めるサポーターの割合は約19%(全国平均8.2%)と理解普及も進んでいる。




こうした特長をさらに高められるよう、ビッグデータ等を広く活用して研究を進めるとともに、効果的かつきめ細やかな健康長寿の政策展開で、超高齢時代に立ち向かう。

※モデル事業では、金沢大学と連携して取り組んでいるデータヘルスの推進で、地区毎の健康課題を見える化し、予防政策の効果を高める研究と、多用な健康政策を展開する。

#### ◎地域包括ケアの充実

現在、中学校区単位(10ヶ所)で設置している「高齢者総合相談センター」に新たにフレイル予防の専門員を配置し機能強化を図る。また認知症の相談ができる医療機関や薬局スタッフの養成や、子どもや学生を含めた認知症サポーターの更なる普及とサポーター指導者の育成等により、地域全体で支え合う仕組みを充実する。

#### ④ 主観的幸福感を追求した質の高い地域づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)	
 4, 4.7	指標：はつらつ市民数（定義は前掲） ※前掲【1.1 将来ビジョン】の KPI のうち、2019～2021 年の 3 カ年 について市独自に設定予定	
 10, 10.2	指標：多文化共生リーダー数（定義は前掲）	
	現在(2018年4月): 364 会員	2021年: 440 会員
 16, 16.7	指標：「幸せへの道しるべ」総合得点（定義は前掲）	
	現在(2016年調査): 393.1 点(満点 600 点)	2021年: 420 点

質の高い暮らしの環境のもと、全ての市民が幸せに生き続けられるよう、内外の様々なバリアを解消するとともに、「学びの力」による、高齢化や人口減少時代にも力強い地域コミュニティづくりと、日本人・外国人が分け隔てなく地域で共生する社会づくりを進める。  
 ※モデル事業では、地域の自主的運営組織である地域協議会の設立と活動推進、主観的幸福感等のより詳細な調査実施、外国人住民への総合支援機能を充実する。

#### ◎包摂性あるやさしいまちづくり




障がいの有無に捉われない相互理解と相互尊重に向けて、本市で 2018 年制定した「多様なコミュニケーション手段の利用を促進する条例」に基づき、手話言語のみならず、点字や音訳、イラストなど様々な手段の活用・普及、人材育成を推進。また、パラリンピアンとの交流などを見据えて、公共施設トイレの洋式化や多目的トイレの設置拡大や、誰もが楽しめる「ゆるスポーツ」の普及促進に取り組む。

また、市内各地区のコミュニティセンターの改修・機能充実を進め、地域単位での学びや持続的な地域づくり活動の拠点としての活用を促進する。

加えて、AI を活用した行政サービスの多言語化を進め、観光情報から救急連絡等まで、外国人住民や来訪者に安心・便利を提供する。

#### ⑤ 市民・団体・企業主導の環境プロジェクトを拡大

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)

 <b>6, 6.6</b>	指標：木場潟 COD 値（定義は前掲）	
	現在(2017年・75%値): 8.6 mg/ℓ	2021年: 5.0±1mg/ℓ以下
 <b>14, 14.5</b>	指標：環境推進活動者数[水辺] ※海浜や流域等での環境活動への年間参加・従事者数より設定	
	現在(2017年度): 6,810人	2021年度: 9,000人
 <b>15, 15.1</b>	指標：生態系回復指数(2019～2021年合計数) ※前掲【1.1 将来ビジョン】の KPI のうち、2019～2021年の3カ年について市独自に設定予定	

木場潟での様々な主体による再生の取り組みとともに、霊峰白山の絶景の眺望と花や緑に囲まれた遊歩道や広場でのウォーキング、レクリエーション、環境教育、ウォータースポーツなど、多種多様な魅力を持つシンボルとして、世界に向けて発信する。


また、その取り組み方を、海岸や河川、市街地など市内各所にも展開し、本市全体の環境共生を進め、美しくこちよいまちの風格やシビック・プライド向上にもつなげる。

※モデル事業では、大学と連携した木場潟の水質・生態系調査の発展や環境活動の広域発信、花と緑による快適な空間づくり、ホストタウン登録による取り組みを展開する。

#### ◎豊かな水環境の保全と活用

木場潟周辺や里山地域等での、農薬・化学肥料等の使用を抑えた環境保全型農業への転換支援や、木場潟・河川・海浜をつなぐウォーキングコース「ミズベリング」の整備、海浜や河川での一斉美化活動やウォーキング大会など、水辺をテーマとした取り組みを行う。

#### ⑥ 地球にやさしい市民意識と行動力を世界に発信

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)	
 <b>12, 12.5</b>	指標：リサイクル率（定義は前掲）	
	現在(2017年度): 21.5%	2021年度: 26%
	指標：可燃ごみ排出量 ※年間の可燃ごみ排出量	
	現在(2017年度): 25,927トン	2021年度: 16,000トン以下



市民や企業主導によるごみ減量化やリサイクル向上への多様な活動促進や、増加する外国人住民への環境美化教育により、ゼロエミッションに向けた着実な行動を推進する。

加えて、外国人住民等には、本市で身に付けた環境への意識や取り組みを、母国等での水平展開を促し、地球規模で環境改善を推し進める機会にもつなげていく。

※モデル事業では、ごみ排出量半減への市民団体等の多様な取り組みを推進する。


#### ◎焼却施設の規模縮小と多機能化

ごみの減量化を見通して、本市は、老朽化した焼却施設をダウンサイジングするとともに、余熱による発電機能等を備えた「エコロジーパークこまつ」を整備(2018年完成)。売電等による焼却コストの抑制と、同施設で環境学習などを引き続き展開する。

#### ◎海洋プラスチック汚染の抑止

海浜のクリーンアップ活動とともに、コンビニエンスストアと連携したマイバックへの転換・レジ袋削減を重点実施する。また、本市で収穫の多い大麦の麦わらを使ったストローの開発(市内の社会福祉法人とも連携)と展開支援など、環境負荷を低減させる技術開発支援も進め、市民の高い環境意識のもとで世界的課題にアプローチする。

### ⑦ 多様なパートナーシップによる未来型まちづくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI(案)
 17, 17.17	<b>指標：多様な連携事業数</b> ※国内外の連携主体との新たな取り組みなどより設定予定 2019～2021年度の3カ年合計： 新規6件

幅広い視野や先見性、専門性を有する多様な主体の知見やパワーを、政策に取り入れることで、よりレベルの高いまちづくりが展開できる。

本市では、SDGsでこのゴールが掲げられるより以前から、国内外を問わず、大学や研究機関、企業、団体などと連携関係を構築してプロジェクトを展開してきた(例えば大学だけでも年間150件以上実施)。引き続き、重要なまちづくり手段として推進していく。

これまでに構築したパートナーとの連携強化とともに、今後は、首都圏など域外の大学や専門的機関等にも視野を広げ、こまつ創生とSDGsの展開を加速させていく。

## (2) 情報発信

(事業推進には、内閣府の講師派遣制度や自治体 SDGs 補助金[初年度のみ]を活用予定)

### (域内向け)

#### ○市内ひとづくり施設での SDGs 学習

統合的取り組みとして後述する「こまつ市民大学」、本市が運営する科学館(サイエンスヒルズこまつ)、絵本館等において、地球課題や SDGs の概念等に関する学習会やワークショップ、体験型教室等を実施し、幅広い世代の課題解決志向を育てていく。

なお本科学館は、国立天文台や JAXA、国立極地研究所など研究機関との連携協定が結ばれ活動が進んでおり、宇宙飛行士や科学者等の専門知見を得ることも十分可能なことから、本市の SDGs 普及啓発の最適な場として大いに活用していくことを想定している。

#### ○「フューチャーデザイン」手法を活用した市民ディスカッション

参加住民が、仮想の将来世代と現世代とに分かれて討議し、政策合意形成する手法を参考に、将来世代へ持続性ある本市の将来像やまちづくり等を考える、市民参加によるディスカッションを実施し、市民の未来志向やまちづくりへの参加意欲を育てていく。

SDGs 理念の普及啓発とともに、新たなビジョン策定(【1.3 推進体制】の章で詳述)に向けての広聴機会にも資する。

#### ○本市の顕彰制度による発信 (本市の SDGs 推進への貢献に対する顕彰)

本市には、産業や社会、教育の発展や、優れた環境・健康活動等に取り組む人や団体への顕彰制度が複数あり、それらの授与理由や選考過程等で SDGs 推進の視点を組み込み、優れた取り組み等を、表彰を通じて広く発信することで市民意欲を高めていく。

#### ○金沢大学小松サテライト

国立大学法人金沢大学の本市での地域貢献拠点として、2014 年に先述の科学館内で開設し、企業ニーズと大学シーズのマッチング支援や、遠隔ライブ配信による大学公開講座などを行っている(公開講座は 2018 年より別施設で移転実施)。金沢大学は本市の SDGs 推進の重要パートナーであり、普及啓発の場として本サテライトを活用することも想定している。(金沢大学と小松市は 2012 年に包括連携協定を締結。)

### (域外向け (国内))

#### ○個人版・企業版ふるさと納税の活用

SDGs モデル事業を始めとした推進の取り組みを、ふるさと納税の募集ホームページやリーフレットなどで広くアピールすることで、本市の取り組みに対する賛同を増やし、寄附金の事業への充用等を進めていく。

## ○地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム、プラチナ構想ネットワーク

会員自治体として、本市の取り組みを全国に発信する場にするるとともに、新たなパートナーシップの構築で、本市の取り組みの加速と更なる展開につながるよう積極活用していく。

## ○域外向け各種媒体・発表機会等（域内への効果を含む）

国連広報センターの SDGs ロゴマークや内閣府制作のポスター等を十分に活用して、市のホームページや各種広告媒体、名刺、県外の本市同郷の集い、域外からの集客も多い市公共施設等で、SDGs や本市の取り組み等を視覚的にわかりやすく発信・紹介していく。

（海外向け）

## ○小松空港での情報発信

年間 20 万人以上が利用する空港の国際線エリア等で、SDGs 推進都市としての本市の取り組み等を、多言語パネルや後述の多言語サイトとの連携により紹介・発信していく。

## ○環境共生活動や企業ネットワーク等を活かした国際学会や国際会議等の招致活動

木場潟などの水辺環境と並び、日本有数の自生した苔が広がる「日用（ひよう）苔の里」は本市の代表的な景観名所となっている。苔の里がある集落の住民らの、地道な景観保全活動と国内外からの来訪者受け入れの仕組みが作られている。

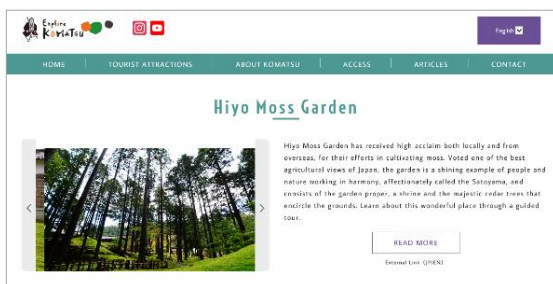
国際連合大学のコミットのほか、皇室関係者、海外大使らも訪れており、住民に根ざした環境との共生への姿勢に多大な理解をいただいている（※）。

こうした取り組み実績、また、グローバル展開する企業が多数立地する特長を活かして、国際学会・会議等の招致推進と、本市の SDGs に資する取り組みの発信等を図っていく。

（※）住民主体の保全の取り組みに想いを込められた、眞子内親王殿下の御歌を刻んだ碑が苔の里のシンボルとなっている。（下記）

## ○SNS の本市公式チャンネル、本市海外向けウェブサイトでの発信

YouTube、Instagram、facebook、Twitter などの SNS を即時性ある有効な情報発信ツールとして活用するとともに、本市が開設している海外向け外国語ホームページ（Explore KOMATSU）でも取り組みを発信していく。



日用苔の里を紹介する本市海外向けサイト



苔の里に建立された歌碑

### (3) 普及展開性(自治体SDGsモデル事業の普及展開を含む)

#### (他の地域への普及展開性)

##### ◎課題の共通性と高い汎用性

グローバル化の進展と増加する外国人住民への対応、地域産業の変革、超高齢化など、本市の各分野で対応していくこれらの社会変化は、いずれも全国の地方都市が受ける共通課題であるとともに、その解決に向けて、標準的規模の都市である本市が実施する取り組みであるため、全国への汎用性は高い。

「木場潟再生」を始めとする環境分野もまた、閉鎖性水域を有する地域間で課題と対策を共有できる。加えて、一地域の湖沼の再生という一見ローカルな取り組みであるが、返って市民や企業等が自らの関われる範囲で参画できることや、清掃活動や家庭での対策などの地道な取り組みが水質改善に着実に表れていることなど、参画の容易性と大規模投資に拠らず取り組める点で、あらゆる自治体ひいては途上国等での普及展開も見込める。

#### (自治体SDGsモデル事業の普及展開策)

##### ◎モデル事業の高い汎用性

本市の統合的取り組みである「一貫した SDGs 人材育成システム」の構築は、このまちが築き上げてきた「民の力」を、ステークホルダーが共同設置した人材育成拠点で育む「学びの力」で一段と高め、課題を克服し、まちの持続的成長を推し進めるものである。

この事業への投資経費の大半は、戦略的な学びのカリキュラムや体制の構築等に係るソフト的費用であり、既存の施設・設備等の活用で、いつでも着手可能な取り組みである。

各分野のステークホルダーと連携してシステムを構築し、課題解決を推し進めるひとつりに取り組むものであり、他の地域でもプランニングや実行が容易であると考える。

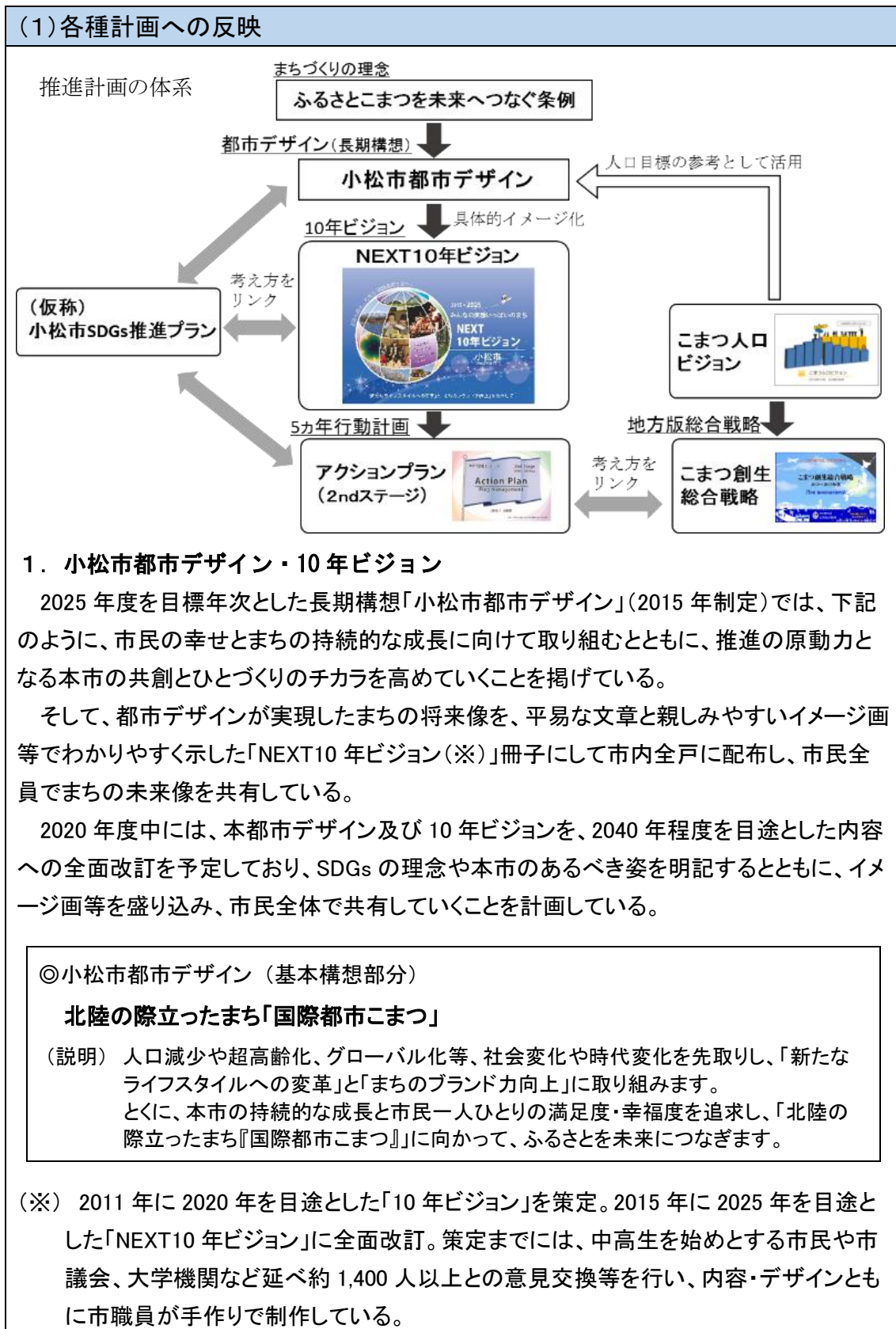
##### ◎「民の力」と「学びの力」の伸長が、持続的なまちを創る

本市は、全国経済誌(日経グローバル)の 2018 年「SDGs 先進度」調査では、全国市区中で総合第 45 位、そして社会分野では第 9 位であった。町内会の加入や教育環境の充実など、本市の力強い「民の力」と「学びの力」が評価された結果であると捉えている。

ここでも、本市が重視したいのは、まちを成長させる「民の力」とそれを高める最善の手段としての「学びの力」、すなわち人材育成である。人材育成は行政最大の使命あり、最良の公共投資であることを大きく発信していきたい。

普及を図るには、先述【(2) 情報発信】での、本市から発信する手法とともに、例えばステークホルダーとして参画する企業や大学等が、本市での取り組みを実証モデルとして、他の地域での事業や研究等で展開、応用研究、発表などを通じて普及展開が図られるよう、各種事業の成果を上げていく。

### 1.3 推進体制



## 2. SDGs 未来都市計画「(仮称) 小松市 SDGs 推進プラン」

本市の SDGs に関する取り組みを統合的に推進するための 2019 年～2021 年の 3 カ年の行動計画として新たに策定する。

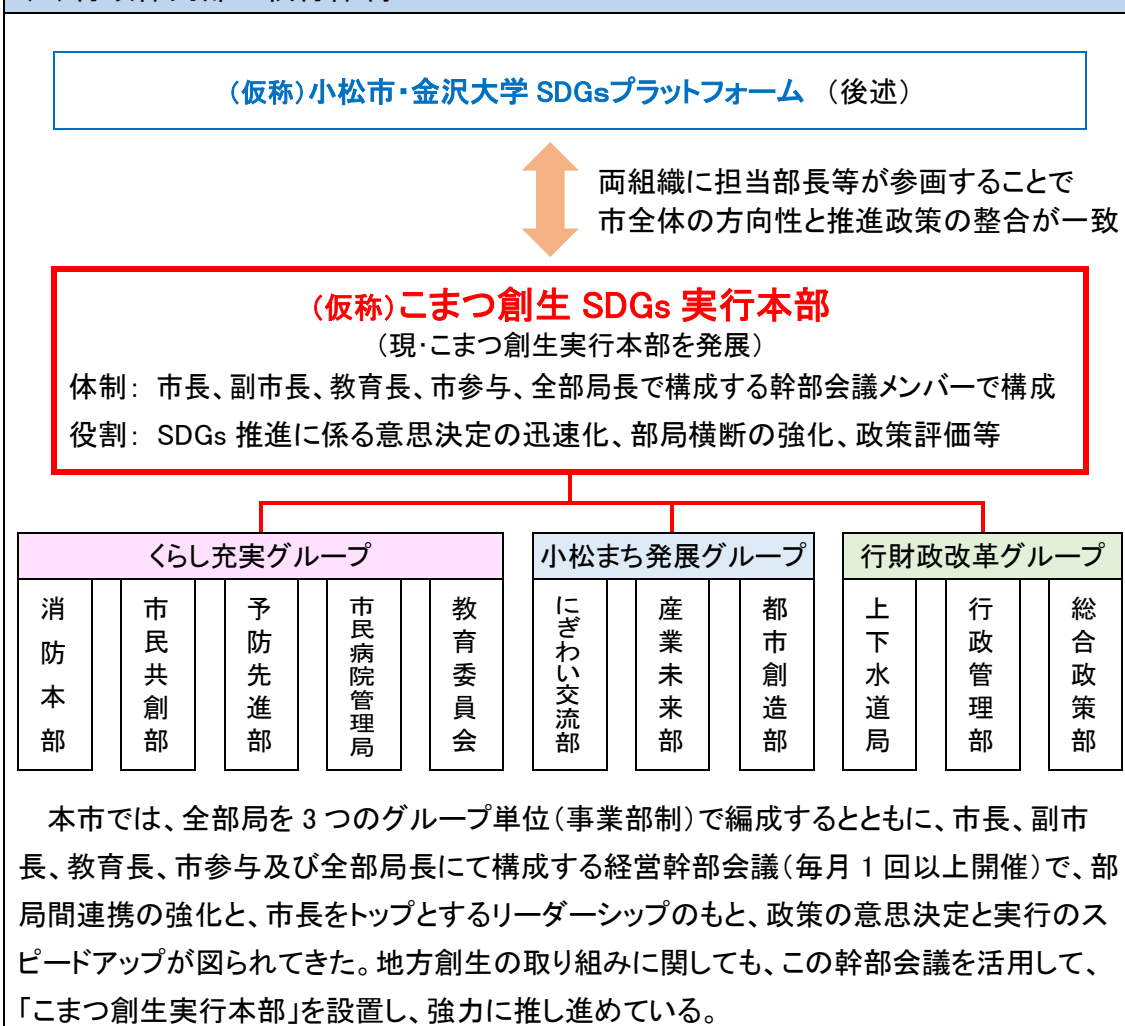
## 3. その他の主要計画

計画の名称・策定年等	計画の概要	SDGs の反映
2ndステージアクションプラン (2016 年 1 月)	10 年ビジョン実現に向けた 5 カ年の行動計画・目標値等 (期間:2015～2019 年)	次期 10 年ビジョン策定時に SDGs 未来都市計画との整合を図り、ゴールや目標値等を共有しながら改定予定
こまつ創生総合戦略 (2015 年 10 月)	本市の地方版総合戦略 (期間:2015～2019 年)	「こまつ創生はひとづくりから」の理念のもと都市デザインの考え方を踏まえて策定。次期改定時にゴールや目標値等を共有しながら改定予定
都市計画マスタープラン (2019 年 3 月改定)	都市計画法に基づく都市計画の基本的方針 (期間:2019～2040 年)	今般改定時に、全体構想に SDGs 推進を明記し、ゴール 11 の理念等を踏まえ基本目標等を作成した
国際都市こまつ共創プラン (2014 年 10 月)	2020 年のインバウンド 4000 万人時代を見据えた本市の国際化まちづくり戦略 (期間:2014～2020 年)	国際化の進展を受けて、次期 10 年ビジョン策定に併せて全面改定予定。SDGs 推進を本市の国際展開戦略の柱の一つに位置付けを予定
第2次こまつ環境プラン (2014 年 4 月)	市環境基本条例に基づく、環境保全に関する総合的計画 (期間:2014～2020 年)	基本目標の一つに持続可能な社会の推進を掲げ、廃棄物対策や再生可能エネルギーの拡大等を規定。次期改定時にはより SDGs の理念等の反映を見据えていく
緑の基本計画 (2019 年中改定予定)	本市の緑地保全・緑化推進計画 (期間:2019～2040 年)	SDGs のゴールを基本方針に落とし込み、環境保全や景観形成等の推進を予定
教育大綱 (2015 年 6 月)	地方教育行政法及び教育基本法に基づく教育	国際化や地球環境の持続性など社会変化のもとで、「ダイ

	の基本計画で、一貫した教育の総合的な施策体系。理念は「智仁勇 あすのこまつを創る人」(期間:2015~2019年)	バーシティ」や「世界で活躍する人材育成」等の推進を位置付けている。次期改定時にはSDGsの理念等を一段と反映させ策定を進める予定
地域ビジョン	小学校区単位で設立を推進している地域協議会が自主的に作成する、地域運営等の活動指針	2019年度以降、市内地区毎で作成が進むにあたり、共生社会やSDGsの理念等を反映できるよう支援する

※これらの計画のほか、市の組織機構や予算編成等においても、SDGsの理念や17ゴールを重視した組織名称や役割、政策や予算の体系整理を進めている。(例:予算案の政策一覧に各ゴールアイコンを明示して、政策とSDGsとの関係が見える化 など)

## (2) 行政体内部の執行体制



そこで、SDGs の推進にあたり、まちづくり戦略の意思決定体制として現に確立しているこまつ創生実行本部を、「こまつ創生 SDGs 実行本部」として組織発展させ、5 年間の地方創生戦略及びより中長期の持続的まちづくりの統合推進体制として機能させる。

また、次項で述べる、金沢大学との SDGs プラットフォームに、本推進本部メンバーが参画することで、市全体の SDGs の方向性と実際の政策との整合を取りながら、スピード感をもって取り組みを展開していく。

これら推進本部及び会議の運営、指標や各種データの分析、各種政策の調整・進捗管理等は、本市の総合政策部署が一元的に管理運営することを予定している。

### (3)ステークホルダーとの連携

#### 1. 域内外の主体

金沢大学を重要な連携主体として、本市との共同で「(仮称)小松市・金沢大学 SDGs プラットフォーム」の新たな立ち上げを予定する。

金沢大学教員や市関係部署で構成する本プラットフォームに、3 分野の取り組みに係るステークホルダー等が参加し、本市の取り組み内容や今後の進行等に関する助言・提案協議、目標や成果等に係る各種データの分析・評価、分野を超えた連携など新たな関係構築等を進める。また、次章で詳述する「こまつ市民大学」の計画・監修等を担うプランニング機能も保持させる。

#### (仮称)小松市・金沢大学 SDGs プラットフォーム

##### 運営メンバー

- ・金沢大学教員(経済・社会・環境の各分野の専門教授など)
- ・市関係部署(各事業推進部署など)

…3 分野毎にワーキングチーム等を組織、  
取り組み内容や今後の進行等に関する助言・提案協議、  
目標値や成果等に係る各種データの分析、評価、  
パートナーシップの裾野拡大や分野を超えた関係構築 等

##### スペシャルプランナー

…こまつ市民大学に係るカリキュラムの計画・監修 等



参加

各分野のステークホルダー(企業、団体など)



## 2. 国内の自治体

### ○南加賀広域圏事務組合（小松市・加賀市・能美市・川北町による一部事務組合）

本市の広域行政主体の一つであり、次章のジビエプロジェクトにおいて食肉施設の整備を担う事業主体であることから、施設整備後のプロジェクト運営が円滑に実施されるよう、綿密な連携を図っていく。

### ○加賀地域連携推進会議（小松市・加賀市・白山市・能美市・野々市市・川北町による任意団体）

北陸新幹線開業を見据えて組織され、白山など自然環境や伝統産業、歴史文化などの共通資源を活かした交流拡大や魅力創出を推進している。SDGs の理念を共有し、本市単体ではないスケールメリットによる自然環境や食の国内外展開などに連携して取り組み、本市の SDGs 推進プロジェクトの成果を高めていく。

### ○石川県

木場潟公園の設置主体で、水質改善プロジェクトや東京オリパラのホストタウン登録を共同で推進している。また、所管する産業創出支援機構や農業総合支援機構、人材確保・定住推進機構、工業・農業各試験場等による企業等への技術や資金支援、UIJ ターン施策などを展開しており、本市産業の成長等を進めていくうえでも大きな役割を担っている。

### ○環境王国認定自治体（福島県天栄村や群馬県川場村など全国 15 市町村が加盟）

豊かな自然や環境と共生する文化が評価され、本市は 2011 年に市としては全国で初めて認定された。「米・食味分析鑑定コンクール 国際大会」の開催（2015 年は本市で開催）や、毎年東京で開催される日本最大級の食品見本市「ファベックス」での国内外のバイヤーへの販売促進など、農産物の付加価値向上を共同で進めている。

## 3. 海外の主体

### ○姉妹都市など交流都市、ホストタウン相手国

本市の企業ネットワークを縁としたブラジル・スザノ市との姉妹都市締結（1972 年）に始まり、民間同士のビジネスや文化・教育活動などを契機として、今日までにアジアや欧州、南アメリカ等を中心とした多数の海外都市との活発な交流活動を展開している。民間交流とともに、青少年の相互派遣や本市大学の海外インターンシップ等を通じて、国際化時代に活躍する人材育成に大きく寄与しており、今後は、双方の課題を共有して SDGs の共同推進などにも努めていく。

また、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとなり、相手国との新たな関係が構築されることは、まさに本市の国際展開を大きく進めるものであることから、事前合宿やアフターコンベンション等で来訪する選手・関係者へのおもてなし活動や通訳、滞在支援を担

市民サポーターの養成、市民等との交流活動を、重要なひとづくり事業の一つとして進めていく。

また、それら関係者等に対して、本市のSDGsの取り組みをパネルやリーフレット等で紹介していく。



本市の海外交流国・都市の分布

## 2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）




### 2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

(1) 課題・目標設定と取組の概要		
(自治体SDGsモデル事業名) 国際化時代の地方都市モデル「こまつ創生」実践事業		
(課題・目標設定)		
① 経済面		
◎ 解決を目指す課題 国際化・人口減少・技術革新のもと 地域産業の成長と多様な就労の実現		
◎ 達成を目指す目標		
	ゴール 2 (持続可能な農業)	ターゲット 2.3 (農業の高付加価値化による農家所得の向上)
	ゴール 8 (経済成長と雇用)	ターゲット 8.3 (適切な雇用創出、起業及びイノベーションを支援する開発重視型の政策促進)
	ゴール 9 (持続可能な産業化)	ターゲット 9.3 (小規模製造業のバリューチェーン及び市場への統合へのアクセスを拡大)
② 社会面		
◎ 解決を目指す課題 超高齢化への対応と、 持続性・多様性ある地域社会の形成		
◎ 達成を目指す目標		
	ゴール 3 (健康・福祉)	ターゲット 3.4 (予防で病気による死亡率の低下)
	ゴール 10 (不平等を是正)	ターゲット 10.2 (年齢、性別、障害、人種等に関わりなく、社会的、経済的及び政治的な包含を促進)
	ゴール 16 (包摂的な社会)	ターゲット 16.7 (あらゆるレベルにおいて、対応的、包摂的、参加型及び代表的な意思決定を確保する)


### ③環境面

◎解決を目指す課題 **水質や廃棄物など環境負荷軽減と  
市民の高い環境意識醸成と活動展開**

◎達成を目指す目標

	<b>ゴール 6</b> (水資源の管理)	<b>ターゲット 6.6</b> (水に関連する生態系の保護、回復)
	<b>ゴール 12</b> (持続可能な生産消費)	<b>ターゲット 12.5</b> (廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用)
	<b>ゴール 15</b> (陸上資源の保全)	<b>ターゲット 15.1</b> (陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用)

※三側面をつなぐ統合的取組により、各分野の課題解決とともに推進される目標・ターゲット

	<b>ゴール 4</b> (教育、生涯学習)	<b>ターゲット 4.7</b> (持続可能な開発のための教育、学び)
--	---------------------------	--

#### (取組の概要)

**経済分野**においては、省人化、自動化、環境負荷軽減などにつながる革新的技術を駆使して、世界のものづくりをリードする民間企業の立地と協力企業へのノウハウの展開で基幹産業は未来型産業に転換。また、農林業へも技術展開し、高度化と効率化、省エネ化を進めていく。一方、中小企業には、時代に応じたビジネスモデルへのチェンジを支援することで産業界全体を改革していく。

農業では、「SAVOR JAPAN」認定や空港の立地、里山資源を活かし、酒造やジビエ産業化など、海外へのマーケット拡大と所得向上に取り組んでいく。この産業の高度化と多様化は、多様な人々の就労機会を創生し、地域の持続的な成長につながっていく。

就労により元来多い外国人住民は、出入国管理法の改正でより増加することが想定される。これは日本の持続的な成長を担保する道程として認識し、外国人住民が安心して働きやすい環境を産業界と民間団体と連携して構築していく。

**社会分野**において、世界が経験したことのない超高齢化を迎え、持続可能な地域社会を形成することは全世界の試金石となる。大学における横断的チームとその知を結集し、データヘルスを活用した各種予防政策を展開していく。さらに、シニア層の仕事、趣味、社会貢献での健康増進を進め、介護認定率を抑え、超高齢時代に対応する最適モデルを目指していく。

地方における一番の財産は、受け継がれた地域コミュニティにある。このコミュニティの自主自立性と持続性を高める新しい地域組織を形づくるため、地域ビジョンの策定や持続性を高める活動を支援するとともに、主観的幸福度を測定し、その上昇を追求していく。

また、経済活動に波及し外国人住民は増加傾向にある。単身のみならず家族での移住も多いため、民間国際交流団体、大学、経済界などと連携し、外国人家族の「学ぶ・働く・暮らす」という幼少期から切れ目ないサポート体制を構築。地域コミュニティとも共生する真の多文化共生モデルを構築していく。

**環境分野**において、昔からの水郷景観を今に残す「木場潟」は、市民団体をはじめ、大学・企業、国・県・市といった行政が一致団結し取り組む環境再生のシンボルである。生物多様性、環境教育、健康ウォーキング、自然景観、さらにはカヌー競技の世界交流拠点として、水環境の再生だけでなく新しい価値を創出する未来志向のプロジェクトを展開する。



美しい花や清らかな水、豊かな樹々は住む人、訪れる人々の心と体に潤いを与え、快適な都市空間を形成する。これらは市民や地域、こども園、学校、地域企業の地道な活動とふるさと愛によって成り立っており、日本が世界に誇る美しい人間性そのものである。この花・水・樹を後世につないでいくための活動に取り組んでいく。

本市は古くから環境意識が高い市民性を持ち、その尊い市民性を活かし、ごみ半減という大きな目標を掲げプロジェクトを進めていく。また、外国人住民の意識向上とノウハウの習得は、今後、母国での展開にも寄与することを期待している。

そして、これらの分野をつなぐ**統合的取り組み**として、多様なステークホルダーとの共同で、一貫したSDGsの人材育成システムを構築、人々に提供し、あらゆる人の「学びの力」を高めて各分野で活躍し、まちの持続性を創り出していく。

## (2) 三側面の取組

### ① 経済面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 <b>2, 2.3</b>	<b>指標：ジビエ売上高</b> ※ジビエ加工プロジェクトによる年間商品販売額等	
	現在(2018年度): —	2021年: 3,600万円
 <b>8, 8.3</b>	<b>指標：経営者育成数</b> ※市制度等による経営者の育成人数や創業者数より設定	
	2019～2021年度の3ヵ年合計: 300人	



9, 9.3

指標：日本酒の海外輸出量

※酒造プロジェクトによる年間輸出量等

現在(2018年度)：

0kℓ

2021年：

30kℓ

①-1 リーディング企業と創る、地域産業モデルチェンジ事業

世界的企業が推進する先端技術の導入による生産性向上や環境負荷軽減、国際展開などを市内中小企業や起業家等に広く展開するため、企業経営の革新を図る事業者への設備投資や開発など幅広い取り組みに対し、助成支援してきた。

今後は、例えば、食品の国際安全基準である HACCAP(ハサップ、危害分析重要管理点)に対応する設備投資や、インバウンド・アウトバウンドに対応したサービス・商品の開発、製造業や建設業等での「作業服が汚れない事業所」の追求による、女性やシニア、障がい者など誰もが働きやすい仕事の仕組みづくりなど、共生社会や国際化時代等の需要にいち早く応えられるよう、支援メニューをさらに見直し・充実を図り、時代変化を先取りする企業への変革と育成を進めていく。

対象事業(ハード)	対象事業(ソフト)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者が共同で行う店舗整備</li> <li>・自動化やICT設備導入</li> <li>・新規事業のための店舗整備</li> <li>・大規模工場等への集約化 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロボット等の導入で生産性向上</li> <li>・海外初展開のための販路開拓等</li> <li>・外国人誘客のための環境整備等</li> <li>・地域の食や文化のビジネス化</li> <li>・自社ブランド商品の開発</li> <li>・新分野や異業種への進出 など</li> </ul>

モデルチェンジ支援制度は、社会変化にスピーディに対応して改良・拡充あらゆる企業のモデルチェンジを推し進める

①-2 外国人就労支援ネットワークの構築

本市の外国人住民支援は、行政の支援以上に、市民と企業で構成された民間団体(国際交流協会)が中心となって活動していることが大きな特長であり、外国人との共生に対する理解と行動力で、日本語習得や暮らしに関する様々な事案について、転入者を始め居住する人々を支えている。

在住者が増加傾向の中で、今後は教育や健康相談、緊急対応など各機関への対応が増えることが想定されることか



民間団体・経済界・行政一体で、多様な関係先と連絡・調整できる総合支援体制を構築

ら、雇用主である事業者側とともに、外国人の就労に関わる産官民の横断的な連絡体制と相談窓口を整備し、市民団体・雇用者・公的機関が一丸となって本市の国際化に向けた万全の体制を整えていく。

また、民間や産業界が主体的に加わり強力な体制が確立されることから、将来は体制・支援の拡充や近隣を含む圏域全体のサポート拠点に発展していくことも目指す。

(地方創生推進交付金申請予定事業)

### ①-3 里山地域での新・酒造プロジェクトと国際展開

里山エリア(西尾地区)でこれまで営まれていなかった酒造事業の始動と、空港立地を活かした海外事業展開による規模拡大を図る。同地区の営農組合と連携し、食用米栽培を酒米栽培に転換し単収を増加させ、地元農家所得の向上を図る。栽培方法の改善や収穫米の共同乾燥体制を整備し、生産性を高めていく。

製造が始まった日本酒は、域内での流通拡大はもとより、空港立地を活かして、全日空国際線での採用・提供などの域外、そして2019年度以降は、香港やアメリカ、シンガポール等の国際展開に向けて、製造量の増産と酒米の作付面積拡大を目指していく。輸出にあたっては、市内商工業者等で結成する日本版DMO候補法人の「一般社団法人こまつ観光物産ネットワーク」がタイアップし円滑な事業推進を行っていく。

(国際展開に関して、地方創生推進交付金[継続事業]活用予定)

※酒造事業は、現代の名工であり「酒造りの神様」として日本を代表する能登杜氏の農口尚彦氏が務めている。現在86歳の同氏は、高齢を理由に一度引退したものの、地域の活性化と後継者育成、そして仕事を通じた自身の生きがい創りのため現役復帰を決意した。高い志と活力で事業を推進しており、高齢化が進む中で、本市のシニアの活躍モデルとして注目が高まっている。

また、本計画が高く評価され、海外バイヤーを含め多数の視察訪問等もなされている。

### ①-4 ジビエ産業化・食文化定着プロジェクト

本市を含め南加賀圏域一体で影響が現れているイノシシ等の有害鳥獣について、南加賀3市1町(小松市・加賀市・能美市・川北町)の行政と関係団体によるコンソーシアムで、食用として有効活用し、地域資源を活かした新たな産業創造はもとより、農作物被害等の軽減や国際化時代を見据えた食文化の拡大を推進する。

獣肉処理及び食肉加工施設は、市内里山エリア(金野地区)で2019年度中の完成に向けて圏域の一部事務組合により整備が進められている。今後はコンソーシアムにおいて、大学等の研究機関と連携して、効果的な加工・流通・販売方法を構築して、酒造事業とともに里山地域の新たな食資源としてインバウンド対応や海外発信を含めブランド化を図る。

※本市では2015年より飲食店を始め地元商工事業者が連携し、ジビエ料理を洗練された

地元九谷焼の器で提供する「こまつ地美絵」事業で、ジャパン・クタニの振興と新たな食文化としての定着・発信を進めてきた。本事業で生産体制が確立されると、地産地消の構築にも大きく寄与する。




器と味覚で楽しめる  
洗練されたジビエ料理

### (経済面の取組に係る事業費合計)

3年間(2019～2021年)総額: 339,800千円

## ② 社会面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 <b>3, 3.4</b>	<b>指標: 歯科口腔健診受診率</b> ※成人(20～80歳)のうち歯科口腔健診を受診した割合	
	現在(2018年度): 11.0%	2021年度: 12%
 <b>10, 10.2</b>	<b>指標: 多文化共生リーダー数</b> (【1.2 自治体SDGsの推進に資する取組】より再掲)	
	現在(2018年4月): 364 会員	2021年: 440 会員
 <b>16, 16.7</b>	<b>指標: 地域協議会による活動推進数</b> ※地域ビジョン作成などに向けて地域協議会を設立した地区数	
	現在(2019年3月): 3 地区 / 市内 23 地区中	2021年: 23(全地区)

### ②-1 データヘルスを活用した予防政策の推進

金沢大学と連携した国保データベースの分析と、結果を活かした疾病や機能の低下などの予防に寄与する多様な健康づくりを推し進める。

具体的には、国保データベースの分析結果を活かして、例えば血圧や高血糖などで特徴ある地区を選定し、小松市民病院との共同で、地区の健康課題に沿った学習講座等を行う。またデータ分析を継続的に実施し、地区毎の改善効果を経年的に把握、PDCAによって、予防政策の改善・充実を行っていく。

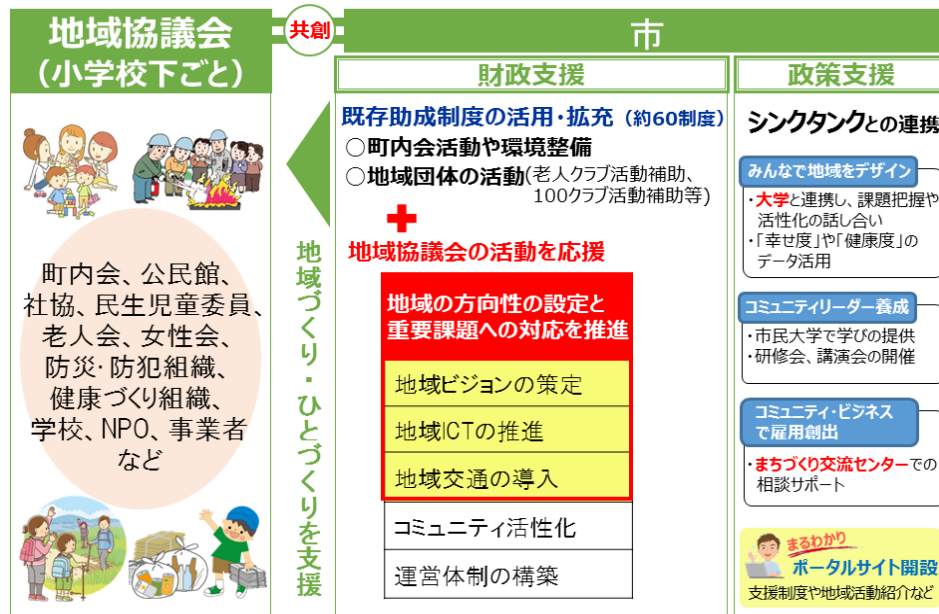
また、上記結果や各地区の食生活改善推進委員による食育普及や、リタイア後の男性を対象とした料理教室、各町の老人クラブへの加入を高めるインセンティブ策とともに、地域の自主的活動の推進。また、認知症や生活習慣病との関連が強いロコモティブシンドローム予防や幅広い年齢層の歯科口腔健診の受診を促進する。



## ②-2 地域協議会の活動形成・推進事業

今後市内各地区で設立が進められる地域協議会の設立促進とともに、地区の活動指針としての「地域ビジョン」策定を支援する(ビジョン作成に必要な調査、協議、事務等への活動助成)とともに、ICT化(電子回覧板等)や地域交通(乗り合いワゴンの運行等)の導入、外国人を含む共生での体制づくりや地域ビジネスへのチャレンジなど、住民・事業者等の発想と行動力で、これから時代に相応する持続性ある地域社会を形成していく。

そして、金沢大学と共同で実施している、主観的幸福度を含む住民の幸せ度調査(幸せへの道標)について、これまで中学校区単位で実施していたものを、より細分化して調査・分析し、各地区の課題や特長などを明らかにして、地域活動に活かしていく。



多様な支援によって、地域の自主的取り組みを促進

## ②-3 外国人住民暮らし総合サポート事業

本市の外国人住民は、単身者はもとより家族単位で移住する割合も高い。そこで、就労する人のみならず、配偶者や子どもなど家族全体の暮らしのサポートも重要となっている。

本市では、国際交流協会主導による長年のきめ細やかな対応で、日本語指導や情報提供など住民主体で外国人住民を支援してきたことで、外国人防災士や防災チームの結成など、相互に学び・支え合う体制が創られてきた。

今後は、一段と増加が見込まれる外国人住民への日本語や暮らしの支援の充実強化とともに、学校などの子どもの成長過程に応じた切れ目ない対応や、長年暮らす外国人住民の相互での助け合い・学び合いの活動の推進、地域コミュニティへの参画を促進する。

具体的には、国際交流協会が実施する暮らしの様々な相談事案にいつでも対応できる




多言語の総合相談機能の整備や、ごみの分別や病院・薬局(処方箋)対応、文化・習慣体験など暮らし方をシミュレーション形式で学ぶ日本語教室の強化、また、補助員の拡充等による幼小中の児童・生徒の日本語初期指導や教員と保護者との連絡体制の充実、高校・大学等への進学支援、地域協議会への参画促進などを図る。

(地方創生推進交付金申請予定事業)

**(社会面の取組に係る事業費合計)**

3年間(2019~2021年)総額: 371,000千円

**③ 環境面の取組**

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 <b>6, 6.6</b>	指標: <b>木場潟 COD 値</b> (【1.2 自治体SDGsの推進に資する取組】より再掲)	
	現在(2017年・75%値): 8.6 mg/ℓ	2021年: 5.0±1mg/ℓ以下
 <b>12, 12.5</b>	指標: <b>可燃ごみ排出量</b> (【1.2 自治体SDGsの推進に資する取組】より再掲)	
	現在(2017年度): 25,927トン	2021年度: 16,000トン以下
 <b>15, 15.1</b>	指標: <b>環境推進活動者数[花・樹・里山]</b> ※緑化活動や里山環境活動等への参加・従事者数より設定	
	現在(2017年度): 8,790人	2021年度: 11,000人

**③-1 木場潟環境共生プロジェクト**

市民、企業、大学、国・県・市一丸での木場潟環境再生に係るプロジェクトの展開と、その活動について、東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿など、国内外からの来訪者増加が見込まれる中で、水質改善や生態系の回復に向けた活動の歴史や取組成果を、国内外に広く発信し、環境再生に対する市民の姿勢を表現する。

具体的には、金沢大学と連携した木場潟の水質・生態系調査の発展(気象影響など)、や他に例をみない水門を活用した実証調査の実施。

また、浮島プロジェクトや生態系調査など、これまで取り組んできた活動・研究成果を表す学術フォーラムや、市民の環境美化の取り組みを広く発信し、世界的視点からの多くの賛同と活動サポートを得ていく。(専門家など人的支援、活動資金の確保など。)

### ③-2 花・水・樹による快適な空間づくり

環境再生が進む木場潟を始め、河川や海岸などの水辺空間、日本の原風景が残る里山、森林散策や花で満ち溢れたスポットなど、東京オリンピック・パラリンピックや2023年の北陸新幹線開業を見据えた、小松の豊かな環境に親しめる空間・体制づくりを進める。

具体的には、2015年の全国植樹祭開催を契機に市内全小学校で設立した「緑の少年団」の緑化活動や、2018年に木場潟遊歩道一円に植樹した桜の花育と桜や水辺と親しむ環境イベントの開催、市民や学校など市内各所で進める花のまち運動「フローラルこまつ」の推進、東京オリパラを記念するローズガーデンの整備、海岸の防砂林となる白砂青松再生事業等を展開する。

あわせて、木場潟で展開するカヌーのホストタウンとして、オリパラ支援チームの設立とスポーツ市民サポーターの活動支援を行う。

こうして、子どもたちを始めあらゆる世代が、自分たちの手で水辺空間を含む自然や植物を育むことで、まちの風格や、まちに対する愛着、そして国内外の来訪者等のホスピタリティ向上に寄与する。

### ③-3 ごみダイエット半減プロジェクト

2025年には2008年比での可燃ごみ50%という大きな目標を掲げて、2016年10月より全国でも数少ない超過従量方式(※)による「ごみダイエット袋(指定袋)」を導入するとともに、市民団体「こまつ環境パートナーシップ」を中心とした「ごみダイエットプロジェクト」の展開で、ごみ量は着実に減少している。

昔からの市民の高い環境美化の意識をさらに発揮し、後世へ引き継いでいけるよう、今後とも、市民団体による環境美化活動(「3R」、「3バック」、「3キリ」の合言葉)の展開支援とともに、新たに、食品ロス削減へのフードドライブ事業や食べきり運動を展開していく。



指定袋は減量化の意欲を高めるデザインに

(※) 超過従量方式は、削減目標量までなど一定枚数は指定袋を無料で配布し、それを超える分は有料とするもの。行政側は配布の負担を要するが、本市の削減目標量を市民がイメージしやすく、本市では分別やリサイクルに対する意識は高まっている。

#### (環境面の取組に係る事業費合計)

3年間(2019~2021年)総額: 238,000千円

(3)三側面をつなぐ統合的取組
(3-1)統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)
<p><b>(統合的取組の事業名)</b></p> <p><b>産学官地域一体による「一貫したSDGs人材育成システム」の構築 ～「民の力」のパワーアップ事業～</b></p> <p style="text-align: right;">(以下「パワーアップ事業」という)</p> <p><b>(取組概要)</b></p> <p>本市ではこれまでも、学校教育はもとより、国際理解、理科科学、自然や伝統文化など特色ある学習機会を提供、そして2018年4月には、圏域初の4年制大学(公立小松大学)がJR小松駅前(2023年北陸新幹線が開業予定)に開学した。そのキャンパス立地(※)を活かして、社会人の生涯学習やリカレント教育を中心に、全世代を対象とした人材育成を行う「こまつ市民大学」を、公立小松大学・商工会議所・地域団体・行政で共同設置し、2018年秋より、15講座・数ヶ月～半年間のプログラムによるプレスクールを開催している。こうして、幼少期から社会人、そしてシニアまで一貫した人材育成体制を整備している。</p> <p>パワーアップ事業は、開設したこまつ市民大学(以下「市民大学」という。)を、経済・社会・環境の各分野で活躍する人材育成機関としてグレードアップするとともに、受講・修了生等が各分野で活躍しやすい条件整備等について、以下の各種政策を図る。</p> <p><b>○SDGsを推進する市民大学へのグレードアップ</b></p> <p>① 「(仮称)小松市・金沢大学SDGsプラットフォーム」による<b>カリキュラム編成・監修</b>  … 共同推進組織にプランニング機能(スタッフ等)を置き、市民大学カリキュラム等を計画・監修(実地訓練やフィールドワークなど実践型学習なども検討)</p> <p>② 市民大学での<b>学びの提供</b>(プレスクールの内容拡充など)  … ①で編成されたカリキュラムを実施  (カリキュラムのテーマイメージ: AI・IoT、環境経営、国際化の推進、人生100年時代のライフデザイン、健康増進・環境美化・地域協議会のリーダー育成とスキルアップ等)</p> <p>③ 世界で活躍する人物等による<b>特別カリキュラム</b>  … SDGsの世界的推進者や先導的活動を進める人物等によるプログラムの実施  (例: 未来予測やデータ分析等のスペシャリスト、ノーベル賞受賞者、メダリスト、発信力や創造性豊かなアーティスト等)</p>

※上記とともに、市民大学以外の特色ある学びについても、今後段階的に市民大学カリキュラムに包含させ、本市の学びを一体運用していくことも想定している。

(今後包含させる部分の事業費は自治体 SDGs 補助金の対象としない。また、地方創生推進交付金[継続事業]活用予定)



統合的取組による新しい市民大学の体系  
(後述の【(5) 自律的好循環】の事業スキーム図も合わせて参照のこと)



市民大学以外での特色ある学習活動の例  
(これからは進化した市民大学が一体的に取り込んでレベルアップしていく)

### ○SDGsに取り組む人材の活躍支援 (自治体 SDGs 補助金は一部で活用)

#### ① 各種助成金による支援 [活動資金等支援] (一部は検討段階)

… 経営モデルチェンジや産業競争力強化、地域づくり関連の助成制度における上乘せや審査加点、起業家スタートアップや環境活動団体への優先的支援 等 (さらに将来的には、入札での加点などの優遇措置等もイメージする)

② 好循環を加速させるためのインセンティブ [活動場所等支援] (一部は検討段階)  
… 公共施設等での活動スペース等の優先利用、使用料減免・無料化 等

③ 本市人材バンクへの登録 [活動機会等支援]

… 「(仮称)小松市 SDGs 人材バンク」への登録・紹介、登録者同士による共同活動支援 等

(※) 市民大学の会場は、大学キャンパスをはじめ近接する市科学館や郊外の地区コミュニティセンターなど、まち全体をキャンパスに特色ある講座を実施している。

なお小松駅周辺には、大学や科学館のほか、(株)小松製作所の「総合研修センター」や子どもものづくり・環境学習施設「こまつの杜」、幼児の食育・知育の「カブッキーランド」など、「学び」をテーマとする機能が集積。また、駅前から広がる寺社仏閣や藩政期の町衆文化の栄華を伝える曳山子供歌舞伎など、歴史文化を伝えるエリアでもある。

こうした教育と歴史文化が融合したまちづくりの発展性・持続性が認められ、2016年の国連ハビタット「アジア都市景観賞」受賞をはじめ、建築等での多数の受賞など、国内外から高い評価を受けている。

#### (事業費)

3年間(2019～2021年)総額: 302,000千円

#### (統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

##### ◎共通カリキュラムとPDCAによる柔軟な編成

市民大学のカリキュラムは、経済・社会・環境の分野別の内容に留まらず、社会変化など分野共通の視点でも編成していく。例えば、先述した AI・IoT や国際化の推進、また人口減少や人生 100 年時代などは各分野を横断する事柄であり、共通科目として全員が受講できる機会を提供。共通理解のもと分野別の専門科目を履修することで、分野間での理解の相違や偏りが発生しにくい事業構造とする。

並行して、3 分野のモデル事業に直接的に役立つカリキュラム提供(先述の健康・環境・地域のリーダー育成など)とともに、モデル全体の事業展開を加速させていく。

また、各分野の事業進捗や成果は、【(2)三側面の取組】の KPI により、「(仮称)小松市・金沢大学 SDGs プラットフォーム」のメンバーと検証するほか、3 分野がバランスよく展開されるよう、各事業の進度に応じたカリキュラムの追加や見直しなどを柔軟に講じていく。

##### ◎グローバル・シティカレッジを目指して

パワーアップ事業は、事業期間である 3 年後程度を目途に、市民や企業の社員のみならず国内外の各地の課題解決にも役立つ教育機関への発展を目指す。

本市の多様な国内外交流の関係性などを活かして、世界の人々が本市にインターン・留学し、グローバル企業内で行われている国を越えた研修システムにならった産業分野の研修や、環境再生・健康・地域づくりの手法などを本市での実践を通じて修得し、途上国も含めた課題対応に役立ててもらおう。

国際化時代に、地方都市の特長を活かした特色ある学びの提供で、本市はもとより地球全体の共通課題に貢献できる市民大学に成長させ、世界中の人々が「学び」をテーマに本市に集い、高め合い、活躍していく、国際都市の未来像を追求したい。

(3-2) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

(3-2-1) 経済⇔環境

(経済→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 木質バイオマスチップ年間出荷量 ※かが森林組合の出荷量のうち本市産材の推定含有量	
現在(2014年): 900トン	2021年: 2,500トン

パワーアップ事業の展開により、経済面の、地域産業全体での省力化、高度化、そして環境経営などの経営革新が促進され、環境面において、環境負荷軽減に向けた再生可能エネルギーへの転換のための、木質バイオマスチップの原料となる間伐材の有効活用が促進されるという相乗効果が創出される。

また、農林業の高度化の進展は、山林や田畑の荒廃防止・活用に資することから、引いては治山治水にも良い影響が期待できる。

※本市の(株)小松製作所・粟津工場では、間伐材による木質バイオマスボイラーを導入し、燃焼蒸気による発電や熱交換を工場の照明・空調・動力に活用(熱効率は約7割)。また行政では、里山エリアの温浴施設の熱源にボイラー導入など、エネルギーの地産地消を進めている。木質バイオマスによる大々的なリーディングケースと本市の助成支援によって、様々な産業分野でのエネルギー変革を進めていく。

(環境→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 里山地域の交流人口 ※市内里山地域の体験・交流施設等の年間利用者数	
現在(2014年): 121万人	2021年: 160万人

パワーアップ事業の展開により、環境面の、木場潟を始めとした環境再生や緑化・花育活動の担い手の増加と良好な自然環境が確保され、経済面において、「環境王国」や「SAVOR JAPAN」の認定と相まって、豊かな自然景観やよい環境で育まれた農産物や加工品、食文化のブランド価値を高め、グリーンツーリズム等による国内外との交流人口や消費の拡大という相乗効果が期待できる。

### (3-2-2) 経済⇄社会

#### (経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標：「幸せへの道しるべ」分野別得点[働く] ※前掲【1.2 自治体SDGsの推進に資する取組】の総合得点を構成する項目のうち、就労に関する満足度等の合計点	
現在(2016年調査): 47点(満点70点)	2021年: 50点

パワーアップ事業の展開により、経済面の、地域産業全体での女性やシニア、外国人など多様な人々の就労と、ワークライフバランスや職場環境の改善など働き方改革が促進され、社会面において、人々の生活や収入不安の軽減、生きがいが獲得され、誰もがいきいきと働き、安心して暮らすことのできる社会環境が築かれるという相乗効果が創出される。

#### (社会→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)
指標：シニア新規就労者数 ※小松市シルバー人材センター会員数等より算出
2019～2021年度の3ヵ年合計: 400人

パワーアップ事業の展開により、社会面の、効果的な予防政策と本市の特色ある健康づくりの取り組みや参加が増加し、地域みんなで健康増進が達成され、経済面において、元気なシニアが、里山を含む地域産業や地域コミュニティでのビジネス活動等で活躍することで、人手不足の緩和や新ビジネスの創出という相乗効果が創出される。



### (3-2-3) 社会⇔環境

#### (社会→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 環境共生団体数 ※わがまち美化ピカ隊やフローラルこまつ推進団体など、市民による環境活動を行う団体数(企業・グループなど)	
現在(2017年度): 884 団体	2021 年度: 921 団体

パワーアップ事業の展開により、社会面の、外国人が共生する地域コミュニティの形成が進展し、環境面において、木場潟を始めとした自然環境の保全や快適な住環境の形成に向けた、地域総ぐるみのごみ分別やリサイクル、環境美化や緑化活動など、環境活動の輪が拡大するという相乗効果が創出される。

#### (環境→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 木場潟公園年間利用者数 ※木場潟各園地等の利用人数	
現在(2017年度): 69 万人	2021 年度: 100 万人

パワーアップ事業の展開により、環境面の、東京オリパラでは本市の国際交流の顔となる木場潟を始めとした自然環境の保全・再生やまちの美化・緑化活動の動きが高まり、社会面において、それら活動の場が、環境向上とともに、市民のスポーツやレクリエーションの拠点として利用されることで、健康増進や仲間づくりなどの相乗効果が創出される。

また、木場潟でのカヌー競技ホストタウン登録の進展で、市民らがサポーターや交流相手として、木場潟を舞台に国際交流が拡大し、新たな交流による本市の多文化共生とまちの国際化が加速する効果も創出される。

加えて、木場潟を始めとする環境保全・再生の進展は、環境と共生するまちのイメージアップと、市民の愛着や誇り、来訪者のホスピタリティ向上も実現する。

(4) 多様なステークホルダーとの連携

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
金沢大学	<p>石川県を代表する総合大学であり、地域と世界に開かれた教育重視の研究大学の位置付けの下、県北部・能登地方に珠洲サテライト、南部・加賀地方に小松サテライトを設け地域連携を展開。本市では 2012 年の包括連携協定締結以来、年間 50 以上の事業を実施。</p> <p>「(仮称)小松市・金沢大学 SDGs プラットフォーム(※)」を共同設置し、本市の SDGs 推進の全体統括と個別モデル事業の双方において、取り組みの PDCA サイクルを進めるとともに、統合的取り組みでは、市民大学カリキュラムの編成・監修等で連携していく。</p> <p>(※)プラットフォームについては【1.3 推進体制】で詳述。</p>

(経済分野の主なステークホルダー)

(株)小松製作所、 コマツ粟津工場	<p>本市で創業し、市のものづくり産業を代表する世界的建設機械メーカー。市内には国内生産拠点の一つである粟津工場や、東京より移転した本社教育・研修機能のコマツウェイ総合研修センタ、テクノレーニングセンタ等が立地している。</p> <p>東京圏と本市在住社員の出生動向等を比較し、本社機能移転を始め子育てしやすい地方拠点の強化、また地域単位での採用など、日本全体の地方創生をリードする取り組みを進めるとともに、ICT 等先端技術による建設機械の開発や生産効率向上・環境負荷軽減など、産業革新を推し進めている。</p> <p>「地域産業モデルチェンジ事業」で、それら革新的技術を地域のものづくり産業全般への普及と、建設業や農林水産業など地方の重要産業への応用展開を共同推進していく。(i コンストラクション拡大、ICT 技術等を活用した農業、再生エネルギーの活用等)</p>
(株)農口尚彦 研究所	<p>本市で新たに創業した酒造事業所で、「新・酒造プロジェクト」では、営農組合や JA 等と連携した地域の酒米生産の拡大と、(一財)こまつ観光物産ネットワークと連携した醸造酒の販路拡大(金融機関や旅行会社と連携した海外商談会等)により、農業バリューチェーンのモデルを構築していく。</p>
南加賀ジビエ コンソーシアム	<p>農林水産省が全国 17 箇所で選定したジビエ利用モデルの実施主体として、「ジビエ産業化・食文化定着プロジェクト」を推進する。</p> <p>南加賀鳥獣被害対策協議会が代表となり、小松市と隣接自治体、猟友会、ジビエ利用促進組織等で構成している。</p>

(社会分野の主なステークホルダー)

小松市国際交流協会	<p>1993年に設立され、日本人・外国人住民、市内事業所等で構成する任意団体で、外国人が暮らしやすく社会参加しやすいまちづくり、グローバルに行動できる人づくり、国際協力など、本市の多文化共生を総合的に進めており、外国人住民支援が行政主体となりがちの中、市外近隣からも手本となっている。</p> <p>「外国人住民暮らし総合サポート事業」及び「就労支援ネットワークの構築」の実施主体や各種支援機関の仲介を担い、外国人住民の増加にも柔軟に対応できるまちづくり・ひとづくりを市と共に推進する。</p>
-----------	--

(環境分野の主なステークホルダー)

小松マテーレ(株)	<p>旧・小松精練(株)。県内有数の繊維染色メーカーで、近年では炭素繊維材の開発等にも力を入れている。それまで廃棄されていた染色時に排出される余剰バイオマスケイクの軽量性・多孔性等を活かし、「木場潟環境共生プロジェクト」の浮島としての活用や、屋上や壁面緑化等へ応用施工など、グリーンビジネスへの展開を進めている。</p> <p>現在、浮島プロジェクトは、浮島に吸着したリン物質等を農地の土壌改良に活かす研究に発展し、広域での展開が始まった。</p>
こまつ環境パートナーシップ	<p>市民・事業者・行政に枠組みで2004年に発足した、本市計画「こまつ環境プラン」の推進団体。現在15プロジェクトに230人以上が参画し、木場潟での環境活動、ごみダイエット、環境教育などを本市全体で推進している。</p> <p>また、本組織は、市内の水環境保全・水辺景観づくりを推進するこまつ水郷2020ネットなど多数の環境団体とも連携している。</p> <p>企業、自衛隊、学生、団体など多様な主体が大規模に参加する仕組みは、まさに本市の民の力を示す大きな象徴である。</p>

(統合的取り組みでの主なステークホルダー)

公立小松大学	<p>2018年4月に開学した圏域初の4年制大学であり、これからの地方課題の解決に重要な、国際系、ものづくり系、医療保健系の学部を有し、学生・教員による地域連携活動もスタートした。</p> <p>市民大学の運営主体の一つとして、大学キャンパスの施設提供や講師派遣、カリキュラム構築などを担っている。</p> <p>なお、本大学では、金沢大学と共同したカンボジア・アンコールワットの保全(在カンボジア日本大使館も事業認定)や、アメリカ・シリコ</p>
--------	--

	ンバレーの本大学オフィス(2019年3月開設)を拠点に、多様なインターン活動を進めており、産業技術や文化・環境再生に関する取り組みを本市のSDGs推進に活かすことも想定している。
小松市まちづくり市民財団	1978年に本市の社会体育振興を目的に設立され、市とともに、市民スポーツの振興などを推進。2018年の設立40周年を機に、文化や交流、NPO活動の振興などの市民活動活性化にも事業を拡大。 市民大学の運営主体の一員として、管理施設や様々な市民団体等との関係構築を担う。

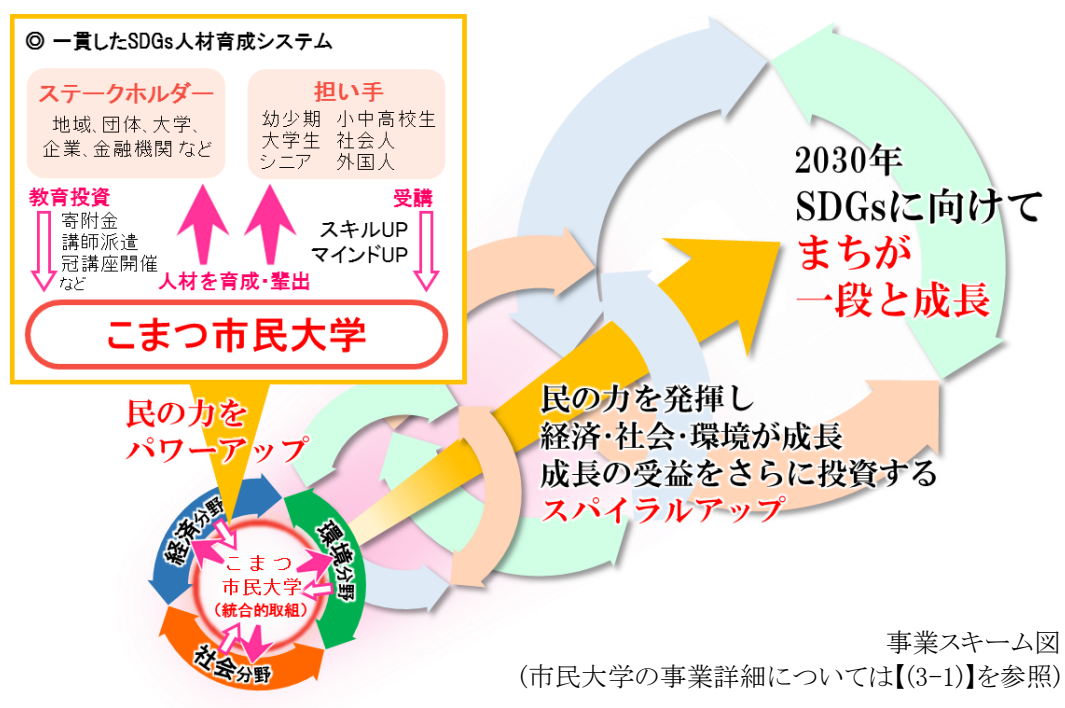
(5) 自律的好循環

**(事業スキーム)**

グローバル化、超高齢化、技術革命、質的社会への転換など、変化の波から生じる日本と地方都市における諸課題に、本市の強みである産業力、市民力、地域力といった「民の力」を、「学びの力」で一段と高め、困難を克服していく。

「人材育成による民の力のパワーアップ」⇒「民の力で経済・社会・環境の各分野をレベルアップ」⇒「各分野の利益を人材育成へ還元・投資」の循環を確立させ、2030年のゴールに向けてスパイラルアップでまちを成長させる。

国際化の影響を強く受ける本市では、外国人も含むあらゆる民の力を結集した国際都市ならではの手法で、地方創生にも資する地方の持続可能な成長モデルとして推進する。



**(将来的な自走に向けた取組)**

◎自治体 SDGs 補助金(統合的取組)により、市民大学を SGD<sub>s</sub> と 3 分野の取り組みを推進する人材育成拠点として進化させる。また修了生が各分野で活動を始め際には、活動資金や場所、活躍の機会を、市の既存政策等を組み合わせて後押しする。

(活動場所支援の一部に自治体 SDGs 補助金を活用予定)

[資 金] 経済面:経営モデルチェンジ支援、起業家スタートアップ、社会面:地域づくり活動支援、環境面:環境保全活動支援等の優先的支援・上乘せ等  
[場 所] 市公共施設等での活動スペース等の利用支援 等  
[機 会] 活躍に向けた人や場所等とのマッチング支援(人材バンク) 等

◎これにより、市民大学で学んだ人材が各分野で活躍することで、3 分野のモデル事業の展開が加速し、行政やステークホルダー等に次のような利益がもたらされる。

[行 政] 活性化による税收増、健康長寿の進展による社会保障費の低減 等  
[経済面] 生産性拡大、社員の能力向上、多様な就労による人手不足緩和 等  
[社会面] コミュニティの自立性向上、地域の担い手確保、QOL・幸福度の向上 等  
[環境面] 環境再生・保全の進展、環境意識・活動の高揚、ごみ減量化の進展 等

◎事業展開とともに、情報発信の充実等で、SDGs の理念や本市の取り組みを社会全体に普及させ、行政や各ステークホルダーが得た利益を、市民大学に還元・投資する機運を高め、「担い手の育成」⇔「3 分野の活性化」⇔「利益の還元」の循環で、自立的・持続的な運営につなげる。

**(市民大学へ還元・投資の例)**

[行 政] 公共投資、企業版・個人版ふるさと納税の充用 等  
[ステークホルダー] スポンサー、寄附金、講師等人材の提供 等  
[担い手] 市民大学の受講料

## (6) 資金スキーム

### (総事業費)

3 年間(2019～2021 年)総額: 1,250,800 千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつなぐ 統合的取組	計
2019 年度	129,600	147,000	114,000	106,000	496,600
2020 年度	105,600	112,000	62,000	93,000	372,600
2021 年度	104,600	112,000	62,000	103,000	381,600
計	339,800	371,000	238,000	302,000	1,250,800

### (活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定 年度	活用予定額 (千円)	活用予定の取組の概要
地方創生推進交付金 (内閣府)	2019	36,300	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済面の①-2 の外国人就労支援ネットワークの構築に係る部分について、4,000 千円活用予定(申請予定)</li> <li>・経済面の①-3 の里山地域での新・酒造プロジェクトと国際展開に係る部分について、1,300 千円活用予定(申請済)</li> </ul>
	2020	36,300	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会面の②-3 外国人住民暮らし総合サポート事業に係る部分について、2,000 千円活用予定(申請済)</li> </ul>
	2021	36,300	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記とは別に社会面の②-3 外国人住民暮らし総合サポート事業に係る部分について、4,000 千円活用予定(申請予定)</li> <li>・統合的取り組みと関連して行う、今後市民大学に包含予定の学び事業等に係る部分について、25,000 千円活用予定(申請済)</li> </ul>
環境保全型農業 直接支払い交付金 (農林水産省)	2019	13,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済面の①-3 の里山地域での新・酒造プロジェクトと国際展開に係る部分について、活用予定(2020～2021 年の金額は 2019 年と同額として積算)</li> </ul>
	2020	13,000	
	2021	13,000	
地域おこし協力隊 特別交付税 (総務省)	2019	12,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済面の①-4 のジビエ産業化・食文化定着プロジェクトに係る部分について、特別交付税対象メニューを活用予定</li> </ul>
	2020	12,000	
	2021	8,000	

## **(民間投資等)**

### **○経済面**

産業革新においては、市のモデルチェンジ支援制度(事業規模に応じ事業費の2.5% [上限2,000万円]~同50% [上限30万円]を助成)により、民間投資を誘発(2018年度は2月末現在で総額1.5億円の直接投資)し、革新に取り組む企業と市の協調で、事業展開が図られている。今後は、SDGsに対応した支援メニューなど制度充実を図り、投資の拡大を促進していく。

また、本市は金融機関(現在2行)と包括連携協定を締結して地方創生等に取り組んでいる。今後はSDGsを推進する企業等へのインセンティブなどの協力体制を検討していく。

### **○社会面**

予防政策において、新たな取り組みを進める際、市からの委託ではなく、行政・大学・医療機関・介護事業所等による共同研究体制で推進しており、相互の研究投資によって効果的な予防政策の立案等を行っている。

また、設立を進める地域協議会では、町内会や民間団体、企業など多様な地域の主体が協力して、地域ビジョンの作成、地域のまちづくりやコミュニティビジネス等に取り組む。取り組みに際し、市はイニシャルコストやランニングコストを支援するが、定額助成ではなく、地域サイドの自己負担がある事業を行うこととしており、地域全体の投資によって地域づくりの推進と自立的・持続的な地域運営につなげていく。

### **○環境面**

間伐材を活用した木質バイオマスによる再生可能エネルギーへの転換促進の取り組みでは、【(3-2-1)経済⇔環境】で先述したリーディング企業が、全て自己投資によって工場内エネルギーの転換を図り、エネルギー効率が極めて高い効果的な活用による投資回収モデルを構築している。これを事例に、市内事業所のエネルギー転換を促進するとともに、個人向けの木質バイオマスストーブ等の購入促進制度などを通じて、企業・個人双方の環境投資を促進させ、環境にやさしいエネルギー転換を進めていく。

### **○統合的取り組み**

市民大学は、運営主体からの負担金とともに受講料収入やステークホルダーからの寄附金等で運営する。モデル事業全体の進展により、市民はもとより、県内外や、国外の交流都市や企業からの受講も推進する。また、本市の取り組みに賛同する国内外からの教育投資を呼び込み、持続性の高い運営や新たなカリキュラムの開発等を進めていく。

将来的には、国内外の企業の社員研修や職業訓練機関としての役割を高め、依頼企業からの受講料や研修受託による収入等の獲得も進めていく。

(7)スケジュール

	取組名	2019年度	2020年度	2021年度
統合	産学官地域一体による「一貫したSDGs人材育成システム」の構築～「民の力」のパワーアップ事業～	官学連携のプラットフォーム設置 市民大学カリキュラムの進化 市民大学開校学びの提供	・PDCA サイクルによりカリキュラムを柔軟に編成 ・3分野の担い手育成を継続 ・担い手の実践支援 ・市・ステークホルダー等の学びへの投資を拡大	・グローバルシティカレッジに向けた展開
経済	リーディング企業と創る、地域産業モデルチェンジ事業	企業スマート化、経営改革、生産革命サポートの補助額の拡充(2019年度)	SDGsに向けた支援メニュー(2020年度～)	の見直し、拡充
	外国人就労支援ネットワークの構築	就業支援窓口開設(4月) 横断的連絡体制の構築(10月)		
	里山地域での新・酒造プロジェクトと国際展開	酒米乾燥調整施設整備(2019年度) 酒米栽培転換が加速	日本酒等地域特産物の海外プロモーション(7～9月頃) 海外プロモーション(7～9月頃)	海外プロモーション(7～9月頃)
	ジビエ産業化・食文化定着プロジェクト	施設整備(～6月頃) 地域おこし協力隊活動(2019年度～2021年度) 販売開始(8月頃～)	ふるさと納税返礼品で活用、道の駅・飲食店・旅館等で普及促進等	
社会	データヘルスを活用した予防政策の推進	・健康・介護データベースを大学へ提供し分析 ・地区別の分析データを活用した効果的な健康づくりを推進	・地区別の分析を経年実施し、データ精度の向上 ・より効果的な健康づくりへフィードバックしていく	
	地域協議会の活動形成・推進事業	地域協議会の周知活動、設置に向けた説明会の開催等 幸せ度調査アンケート実施	→ 設立後、ビジョン策定や活動を支援 分析結果等を活用した地域でのワークショップ	
	外国人住民暮らし総合サポート事業	・こども園等の多言語対応拡充 ・小中学校の児童支援拡充 外国人相談員拡充(6月～) 暮らし相談窓口開設(10月～)	・日本語習得支援拡充 ・高校進学支援 ・緊急時の支援体制強化 ・地域参加の促進	
環境	木場潟環境共生プロジェクト	多様な水質・生態系調査の継続	木場潟コンクリ(11月頃) 木場潟環境フォーラム(2月頃) 水辺クリーンデー(3月頃)	・環境活動の継続 ・産学官地域一体での水質改善
	花・水・樹による快適な空間づくり	ローズガーデンの整備(2019年度) 白砂青松再生植樹地整備(2019年度)	オリパラ支援チーム設立(6月) パラフェスこまつ開催(6月頃)	・ホストタウン交流を継続 緑花活動の継続
	ごみダイエット半減プロジェクト	地域主体のごみダイエットプロジェクトの継続	・利便性の高いごみ回収手法の検討・導入 ・食品ロス削減活動の展開	



事業名:国際化時代の地方都市モデル「こまつ創生」実践事業

提案者名:石川県小松市

取組内容の概要

グローバル化、超高齢化、技術革命など日本と地方都市が直面する課題に対し、「学びの力」により、産業力・市民力・地域力といった「民の力」を高めることで克服する。「人材育成による民の力のパワーアップ」⇒「民の力で経済・社会・環境の各分野をレベルアップ」⇒「各分野の利益を人材育成へ還元・投資」の好循環を生みスパイラルアップさせることで、地方創生のモデルとなる国際都市を実現する。

経済

課題 国際化・人口減少・技術革新のもと  
地域産業の成長と多様な就労の実現



経済面の相乗効果①

〔経済→社会〕

・誰もが活躍できる就労環境で  
幸せを実感できる社会の構築

社会

課題 超高齢化への対応と、持続性・  
多様性のある地域社会の形成



社会面の相乗効果①

〔社会→経済〕

・健康長寿による人手不足の緩和

①-1 リーディング企業と創る、  
地域産業モデルチェンジ事業  
…産業革新支援

①-2 外国人就労支援ネットワークの構築  
…就労総合支援体制

①-3 里山地域での新・酒造  
プロジェクトと国際展開  
…農業高度化、海外販路拡大

①-4 ジビエ産業化・食文化  
定着プロジェクト  
…加工施設整備、生産・販売

②-1 データヘルスを活用した  
予防政策の推進  
…大学調査分析、健康づくり、予防事業

②-2 地域協議会の活動形成・推進事業  
…大学との幸せ度調査、地域協議会活動支援

②-3 外国人住民  
暮らし総合サポート事業  
…生活相談機能、日本語学習支援

三側面をつなぐ統合的取組  
産学官地域一体による「一貫したSDGs人材育成システム」の構築  
～「民の力」のパワーアップ事業～

金沢大学との共同プランニングで「こまつ市民大学」をSDGs人材育成拠点に進化  
◆AI・IoT、国際教育、人生100年時代のライフデザイン、地域協議会リーダー養成等に加え、世界レベルの講師等による特別カリキュラムで、SDGsの達成に向かって3側面の取組をリードする人材を育成  
◆この人材が各分野で活躍することで、ステークホルダーたちの利益を生み、教育投資として市民大学へ還元する  
この人材育成の好循環システムで、持続的に民の力をパワーアップ

環境面の相乗効果①  
〔環境→経済〕

・自然環境・農と食を  
ブランドとした  
交流人口や消費の拡大

経済面の相乗効果②  
〔経済→環境〕

・再生可能エネルギー等、  
環境配慮型の産業転換による  
環境負荷の軽減  
・農林業振興による治山治水

環境

課題 水質や廃棄物などの環境負荷軽減と  
市民の高い環境意識醸成と活動展開



③-1 木場潟環境共生プロジェクト  
…大学との水質調査分析、市民活動展開

③-2 花・水・樹による快適な空間づくり  
…緑化・花育展開、ホストタウン交流

③-3 ごみダイエット半減プロジェクト  
…ごみ減量化、リサイクル

社会面の相乗効果②  
〔社会→環境〕

・国籍を越えた  
地域総ぐるみでの  
リサイクル、環境保全、  
景観の向上

環境面の相乗効果②  
〔環境→社会〕

・木場潟をはじめ豊かな自然に  
親しみ健康を増進  
・木場潟カヌー競技での  
ホストタウン登録による多文化  
共生・国際交流の拡大

# 参考資料一覧

石川県小松市

## 参考資料 1 ふるさとこまつを未来へつなぐ条例

- 〔関連項目〕 1.1 将来ビジョン-(2)2030年のあるべき姿 (P.6)
- 1.3 推進体制-(1)各種計画への反映 (P.21)

## 参考資料 2 NEXT10年ビジョン

- 〔関連項目〕 1.1 将来ビジョン-(2)2030年のあるべき姿 (P.6)
- 1.3 推進体制-(1)各種計画への反映 (P.21)

## 参考資料 3-1 (新聞記事) 金沢大学と小松市「SDGs 推進で協力を強化」

- 〔関連項目〕 1.3 推進体制-(3)ステークホルダーとの連携 (P.24)
- 2.1 自治体 SDGs モデル事業での取組提案(4)多様なステークホルダーとの連携 (P.42)

## 参考資料 3-2 (新聞記事) 金沢大学と小松市で木場潟の水質浄化

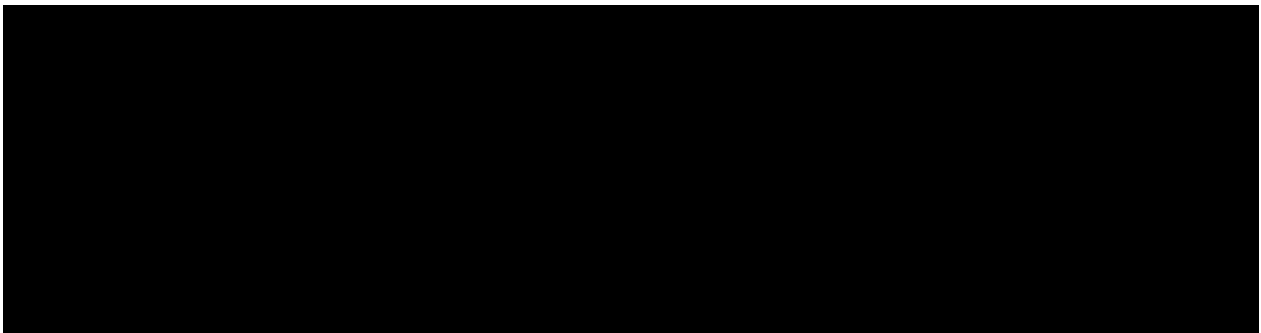
- 〔関連項目〕 1.1 将来ビジョン-(2)2030年のあるべき姿 (P.4)
- 2.1 自治体 SDGs モデル事業での取組提案(2)三側面の取組 (P.34)

## 参考資料 3-3 (新聞記事) 木場潟で NZ カヌー選手が地元学生・住民と交流

- 〔関連項目〕 1.1 将来ビジョン-(2)2030年のあるべき姿 (P.4)
- 2.1 自治体 SDGs モデル事業での取組提案(2)三側面の取組 (P.35)
- 2.1 自治体 SDGs モデル事業での取組提案(3)三側面をつなぐ統合的取組(3-2)三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等 (P.41)

## 参考資料 3-4 (新聞記事) 小松市在住外国人が災害時に地域のリーダー役に

- 〔関連項目〕 1.1 将来ビジョン-(2)2030年のあるべき姿 (P.4)
- 2.1 自治体 SDGs モデル事業での取組提案(2)三側面の取組 (P.33)



# ふるさとこまつを未来へつなぐ条例

---

～ PASS THE BATON ～



## ふるさとこまつを未来へつなぐ条例

「子どもたちのため、まだ見ぬ次世代のため、残したい自然がある。  
そして、伝えたい文化がある。」

私たちのふるさとこまつは、はるかに白山連峰を望み、その裾野には緑の里山が連なっています。白山や大日山からの一滴はやがて、木場瀧をはじめとした水郷を創り出し、広大な加賀平野の大地を潤し、四季折々の美しい景観と多様な動植物の命を育み、日本海へと還っていきます。

この大自然の営みと恵みのもと、古からのものづくりと日本各地とをつなぐ交易により産業が栄え、このまちと人びとの暮らしは豊かになりました。

そして、産業の発展は、江戸時代から連綿と引き継がれてきた曳山子供歌舞伎に代表される町衆文化や伝統文化の華を咲かせ、ふるさとのあたたかい風土を育み、人びとの心に豊かさと潤いをもたらしました。

悠久の歴史のなか、その時代を生きる先人のふるさとへの想いと行動は、幾世にわたり、次の時代を生きる人びとに確かに伝えつなわれ、そして、ふるさとの未来は拓かれてきました。

私たちは、先人たちの想いをも受け継ぎ、このまちを守り育て、心の拠りどころであるふるさとこまつを未来へつなぎます。

## 目 的

第1条 この条例は、先人が守り培ってきたふるさとこまつが、こまつに関わりあいのある人びとにとって共通の尊い財産であることを認識するとともに、それらをつないできた人びとに大いに感謝し、受け継がれた自然環境や文化などを守り、発展させ、先人の努力の結晶であるふるさとこまつを未来へつないでいくことを目的とします。

## 定 義

第2条 この条例において、ふるさとこまつ(以下「ふるさと」という。)とは、大日山をはじめとした山々と森林、木場潟及び梯川等の水郷、そして、日本海などの「自然環境」、歴史と先人の努力の結晶として受け継がれてきた伝統的な風習や芸術、芸能などの「文化」、これら自然環境や文化により創り守られてきた美しい「景観」、ものづくりや自然の恵みで育まれる農林水産業のほか、ふるさとの発展を支える「産業」などのかけがえのない地域資源、そして、技術や想いを伝えつないできた「人」びとにより築き上げられてきたまちをいいます。

## 基本理念

第3条 基本理念は、次のとおりです。

- 1 豊かで恵まれた自然環境の保全と教育や交流などへの活用を進め、その両立をめざします。
- 2 受け継がれた文化を次世代に保存・継承するとともに、文化資源の価値と魅力を高め、交流の舞台に活かします。
- 3 ふるさとを支え続けている豊かな産業を、先人のように人と技術でたくましく発展させ、ふるさとの成長につなげます。
- 4 現在の課題を踏まえながら時代変化と社会変化を先取りし、未来志向に立った行動で、未来の人びとへふるさとをつなぎます。

## 行動指針

第4条 前条の基本理念に基づき、ふるさとを大切に想う市民や地域、事業者、教育機関、各種団体（以下「市関係団体」という。）、市議会及び市をはじめ、様々な団体及び個人それぞれがふるさとづくりの主体として互いに連携・協力し合い、次の行動指針に則り、共にふるさとの継承と未来創りを進めます。

- 1 ふるさとは人から人へつながれ発展してきました。ふるさとの魅力を伝え育む教育や多様な分野における担い手の育成など、未来を創るひとづくりに取り組みます。
- 2 先人たちの知恵や工夫を学びつつ、新しい技術や手法を研究し、取り入れながら、まちづくりを進めます。
- 3 様々な団体及び個人との連携や国内外の都市及び人びととの交流を広げ、共創のまちづくりを進めます。
- 4 各地域の文化や魅力を高め、担い手を育成し、特色ある地域づくりを進めます。

## 市及び市関係団体の役割

- 第5条 市は、第3条の基本理念及び前条の行動指針に基づくふるさとづくりの方向性を、基本構想やまちづくりビジョンに織り込むとともに、行動計画の策定、推進体制の整備等を通して、その実現をめざします。
- 2 市は、市民や市にゆかりのある人、国内外の多様な人びとの声に耳を傾けながら、ふるさとをより高い舞台に上げるため、未来を先取りし、共創の精神をもってPDCAを展開します。
  - 3 市関係団体は、ふるさとの発展に向けた自らの諸活動を、主体性をもって実践し、ふるさとの振興に寄与します。

### 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

御製 第六十六回全国植樹祭

父君の蒔<sup>ま</sup>かれし木より作られし鋤を用ひてくろまつを植う

昭和五十八年に石川県で開催された第三十四回全国植樹祭の際、昭和天皇はスギの種子をお手蒔きになりました。本年（平成二十七年）五月の同県での全国植樹祭において、このスギの間伐材で作られた鋤をお使いになって、クロマツの苗木をお手植えになったことをお詠みになっています。

平成二十八年歌会始御歌 眞子内親王殿下

広がりし苔<sup>こけ</sup>の緑のやはらかく人々のこめし思ひ伝はる

眞子内親王殿下は、昨年十一月にJCI世界会議金沢大会へご臨席のため石川県へお成りになり、その折に、小松市の日用苔<sup>ひょうこけ</sup>の里を訪ねられました。庭一面に広がる鮮やかな緑の苔<sup>こけ</sup>をご覧になり、また、苔<sup>こけ</sup>のやわらかさにふれられて、心を込めて苔<sup>こけ</sup>の世話をしている人々の思いが伝わってくるように感じられたことを、このお歌にお詠みになりました。

（いずれも宮内庁発表資料より）

2015年、五月晴れのもと、天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、古くからの水郷景観を今に伝える木場潟湖畔の公園を中心に、全国植樹祭が開催されました。

この植樹祭は、素晴らしい自然環境や文化を有するふるさとこまつが、幾世にわたり守り育まれ、先人たちの想いと努力の結晶として今につながれていることを私たちに教えてくれました。

今を生きる私たちが、このふるさとへの想いを確認し合い、次の時代、そしてまた次の時代に、ふるさとをつないでいくことが大切だと考えます。



条例の趣旨を分かりやすくした子ども版。  
未来を担う子どもたちに、ふるさとの大切さを伝え、ふるさとを未来につなぎます。

わたし  
私たちのふるさと、こまつ  
すてき  
こまつには素敵なおとこがたくさんあります  
おばあちゃんやおじいちゃんより、もっともっと前から  
ちから まも そだ  
みんなの力で守り育ててきたんだ  
  
はな みどり い もの しぜん  
花や緑、生き物がいっぱいの自然  
かぶき ねいろ たび  
歌舞伎の音色があふれるお旅まつり  
やま うみ おく もの  
山と海からのおいしい贈り物  
の もの であ  
たくさんのわくわくする乗り物に出会えるよ  
  
わたし  
私たちは「ふるさとこまつ」のいいところを  
し ひと つた  
いっぱい知って、たくさんの人に伝えます  
まも たいせつ  
みんなが守りつくりあげた大切な「ふるさとこまつ」を  
わたし すてき  
私たちがもっと素敵なおとこ「ふるさとこまつ」にしていきます



北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」



2015 ▶ 2025

みんなの笑顔いっぱいのもち

# NEXT 10年ビジョン

小松市  
KOMATSU CITY



「新たなライフスタイルへの変革」と「まちのブランド力向上」をめざして



# 目次

- I メッセージ ..... 1
- II 10年ビジョンからNEXTへ ..... 3
- III NEXT 10年後のこまつをイメージ ..... 5
- IV 2025 NEXT にまつ ..... 7
  - 1 日本「おもしろい」まちに ..... 7
  - 2 日本「たくましい」まちに ..... 13
  - 3 日本「こころよい」まちに ..... 17
  - 4 日本「はつらつ」「うたひ」とまちに ..... 21
- V 10年後の素敵なこまつをめざして ..... 25
- VI NEXTビジョンの主な目標値 ..... 25

## I

# こまつに恋するあなたとご家族へ

2025年、  
先人たちが幾世にもわたり守り育み、  
受け継がれてきたふるさと「こまつ」は、豊かな産業と  
四季折々の花々や清らかな水、豊かな緑に囲まれています。

こまつと世界が近いグローバル時代。  
航空機や新幹線が多くの異国の文化を運び、  
ビジネスや観光、教育で交流し、  
まちもひともしも活力あふれています。

伝統文化が息づくまちには、  
デジタルやロボットなどの新しい技術が融合し、  
若者もシニアも、女性も、  
仕事と趣味で、大活躍しています。

こまつ未来予想図  
『北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」』



たくましい技術力が創り出す  
「子ども科学技術都市にまつ」に  
世界から子どもたちが集まり、夢を描き  
みんなも笑みがこぼれます。

家族三代、四代、兄弟姉妹もいっぱい。  
みんながはつらつと学び躍動し、  
未来のふるさとの担い手となり、  
にまつのを力を高めていきます。

にまつに関わるすべてのひとがやせしむにつつまれ、  
心の拠りどころとなり、永遠くの想いをいただき続けるふるさど。  
住むひと・訪れるひとにやさしく、素晴らしいまち。  
そして、地球にもやさしい美しいまち。

そんな『みんなの笑顔いっぱいふるさどにまつ』を、  
ともに創り未来くつなげます。

メッセージ - Message -

2011年に策定した10年ビジョンにより「まちの新しい形とイメージアップ」をめざし、にまつのを強みを「歌舞伎のまち・科学とひんごづくり・乗りものまち・環境王国にまつ」の4テーマに分類し、まちづくりを分かりやすく、そして、力強く進めてきました。オールにまつのを市民力・地域力で、客観的評価や主観的満足度・幸福度も高まり、まちは着実に成長しています。心より感謝申し上げます。

2020年、東京オリンピック・パラリンピック開催、そして2023年には、いよいよ新幹線が小松にやってきます。グローバル化や技術革新、地方創生など、時代が変化するなか、すばらしい自然、食、文化に産業、地域の絆に恵まれたにまつは、国際色豊かに、もっと便利に、もっと元気になります。

これから10年の方向性を「NEXT10年ビジョン」としてリニューアルし、まちづくりを次のステージに進めます。策定にあたっては、市民の皆様や市議会と、未来のにまつ創りを議論してまいりました。

3つのまちづくりコンセプトである日本「ももろい・たくましい・こころよい」まちに加え、「はつらつ」と躍動するひととまちをめざし、皆様とともに、ふるさどに恋し、ふるさと共創のパートナーで取り組んでまいります。

2015年11月

小松市長 和田 慎司



# 10年ビジョンからNEXTへ

## 1 2011年、まちの新しい形とイメージアップをめざし「10年ビジョン」を策定しました

2015年の北陸新幹線金沢開業を見据え、目標を共有し、まちづくりを進めてきました

11月には、アクションプランを策定

政策制度のスピードアップ

予算税)の有効な使用

市民の満足度・幸福度を追及

まちの強みを4テーマに大別。まちづくりを展開、価値向上

(歌舞伎・科学とひとづくり・乗りもの・環境王国)

地方創生の進め方を先取りしており、

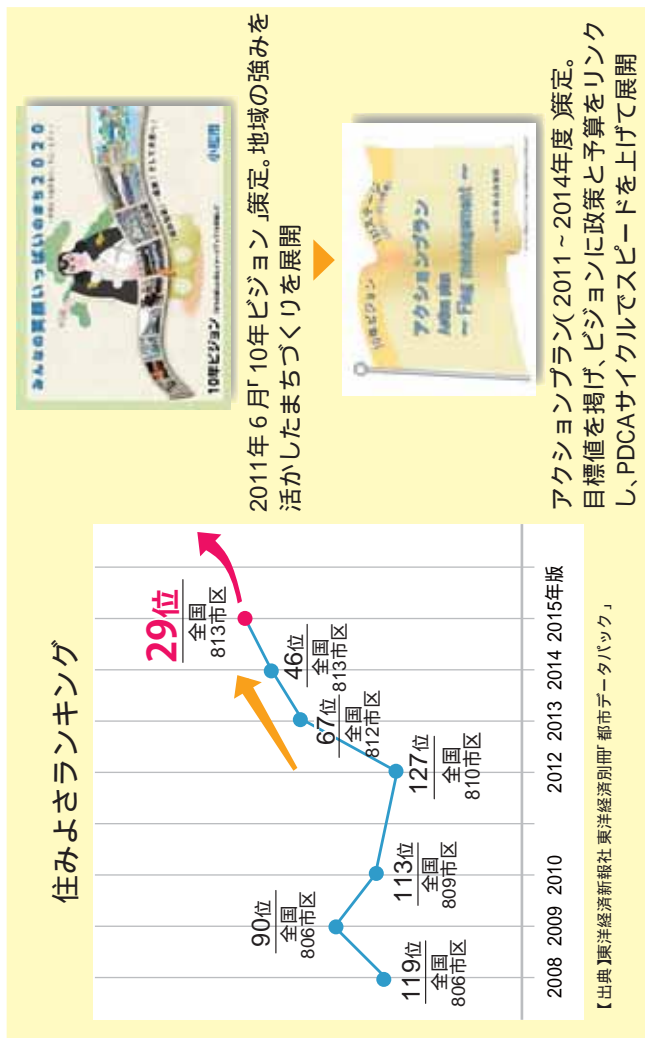
成果は着実に現れています

産業力・人材力をアップ

国際化進展、交流拡大

市債金減少と固定費削減

住みよさも向上してきました

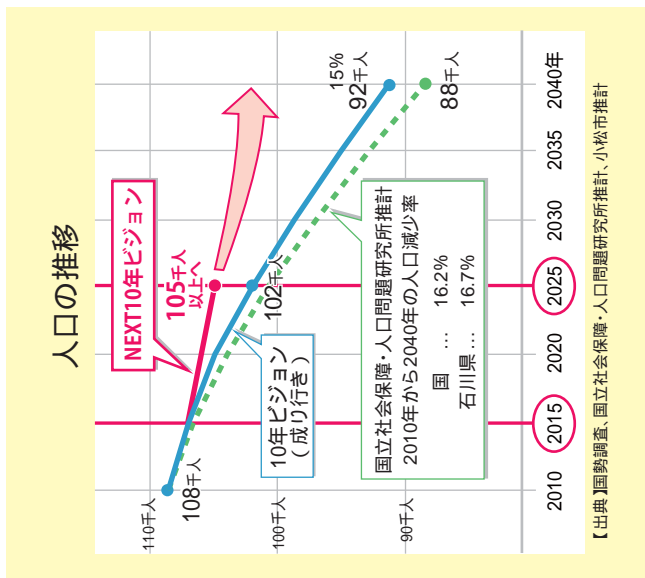


## 2 人口減少、超高齢化など、私たちの社会は大きく変化していきます

2040年には全人口の1/3以上が65歳以上に

介護や医療などの社会保障費は著しく、家族の負担も増大

人口減少のうえに年齢構成のひずみが、経済だけでなく、日本文化の保存や地域コミュニティーの活力にも影響







## 1 北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」をめざして

グローバル時代に、地方も国際化していきます。時代変化を先取りし、4つの視点と8つの都市像を掲げ、「新たなライフスタイルとまちのアピール力の向上」を

### 変革と成長しつづける 1

#### おもしろい

#### レポリューション

- 1 大交流時代の北陸の拠点として人びとが行き交います
  - 2 小松文化と世界のハーモニーで感性豊かなまちが育まれます
- アクセス向上。世界が広がる大交流流。
- 多くの人びとが集まる おもしろく楽しいまちへ
- グローバルな視点で、地域資源の価値を高め、新たな文化を創造

### 新たなライフスタイルを楽しむ 3

#### ここちよい

#### ルネサンス

- 5 予防先進を合言葉に地域一体となってここちよいくらしを楽しみます
  - 6 里山・水辺に親しむ三世代の笑顔が小松の自慢です
- 超高齢化のなか、健康長寿、仕事や趣味でシニアが大活躍
- 子どもたちの成長をサポート、三世代のくらしを楽しみます

### 進化する科学技術が躍動する 2

#### たくましい

#### イノベーション

- 3 昔も今もこれからも未来を拓く創造とサイエンスに言んだものづくりが小松市の象徴です
  - 4 環境と共生するスマートな暮らし方が日本中から評価されます
- 日々進化する新しい技術を活用し、卓越した「たくましいものづくりのまち」に
- くらしもビジネスも、便利で快適。環境と共生する豊かなくらしを実現

### チャレンジしつづける 4

#### はつらつ

#### アクティブ

- 7 意欲的に学習や地域貢献に取り組むはつらつとした人びとが世界でふるさとで輝きます
  - 8 たくましい財政、市民から信頼される市役所が小松市の持続と発展をリードします
- まちづくりはひとつづくりから。まちづくりのベースはP D C A。
- ひとを育て、まちもひとまはつらつ財政の健全化、機動的な市組織づくりなど、改革を継続実行





## 2 まちづくりを強力に進める 2つのエンジンは、 「共創」と「ひとづくり」

全国植樹祭で示した市民力&地域の  
絆はこまつの大きな力  
この力を活かした「共創」のまちづく  
りで未来を創ります  
日本が得意とする技術力、サービス  
力、市民力、地域の絆の源は、昔も今  
もこれからも「ひとづくり」のチカラ  
にの2つのエンジンのパワーと質を  
さらに高めていくことが重要です

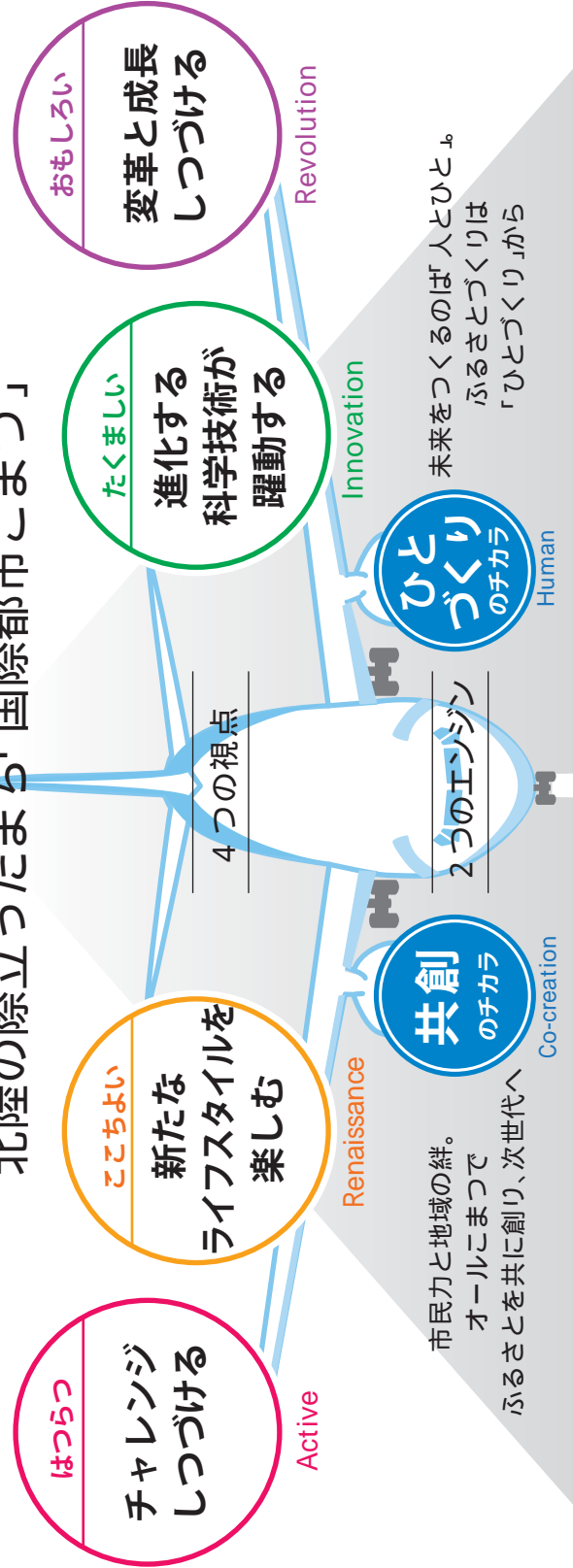
## 3 地方創生。 たあ、高い志を持って、 未来のこまつを 共に創りましょう

地方自ら考え行動し、まちづくりを  
進めていくのが地方創生の本質です  
いつの時代も、先人たちは苦難を乗  
り越え、ふるさとを継承・発展させて  
きました  
「温故知新」先人から学び、みんなの  
知恵とアイデアを結集し、  
オールこまつで、進取の気性で勇気  
をもってチャレンジを

たあ、ワクワクする 2025年NEXTにまつく  
「未来くつなき、未来を拓き」ます

都市デザイン

北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」



名称およびイラストの一部は、決定しているものではありません。

日本一「たくましく、そして、やさしい」まちと人びと

## 北陸の際立ったまち「国際都市こまつ」

*Komatsu Movement!*  
*Spirit & Movement!*



### レボリューション

- Revolution -

# 1

変革と成長しつづける  
ひととまち

## 日本一「おもしろい」まちに

空、陸、海の大交流時代に  
高いアクセス力が活きる。

人材育成、ビジネス、観光でグローバルに対流し  
まちが新しい形に進化する

グローバル時代の主役。

世界とつながる北陸の国際ゲートウェイ



# レボリューション - Revolution -

世界中に、日本中に、

アジアのハブ空港とはデリーで。国内空港とのエアラインも増加

24時間対応のターミナル

ワールドモールで異国文化を味わいます。

ハイウェイとも直結。新幹線小松駅とは自動走行ビークルで連絡する快適なアクセス

空港周辺はおもしろいエリアに

国際物流基地化で、新しい産業も育ちます。

インバウンド・アウトバウンドにスムーズに馴染めるよう国際スクールが併設

来て、観て、遊んで楽しい「スカイワールドゾーン」



美しい花と緑のなか、未来を創る「ひとと技術」が育つキャンパスゾーン

# 空港と直結する北陸新幹線小松駅。 科学とひとづくりが際立つ、 全国から注目される駅東エリア



新幹線小松駅は仮のものですが。





最先端ロボットが楽しいサイエンスヒルズ



サクセスルーム



駅東未来タウン  
「科学とひとづくり」

空港とは  
自動走行ビルで連絡

(仮称)駅南ゲートビル

華やかなお練り

駅西伝統のまち  
「歴史と伝統文化」

## 小松駅は、駅東「未来タウン」と駅西「伝統のまち」をつなぐかけはし 人びとと文化が行き交う南加賀のターミナル

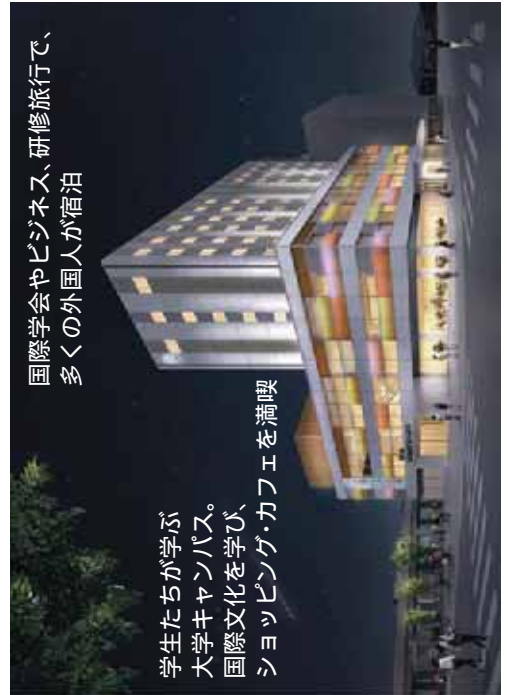
新幹線、在来線、バス、レンタカーなど、交通アクセスと公共交通が充実。通勤・通学、ビジネス、観光、研修など、南加賀のターミナルに。

最新型の自習空間「サクセスルーム」で電車の待ち時間も有効に活用します。

新幹線小松駅は、産業・文化のPR拠点。利用される人びとにもっともやさしい駅に。

## 小松駅周辺は、みんなの夢を育む学びのエリア

産業観光の拠点はもちろん最先端を学ぶサイエンスヒルズ、市民も学ぶ4年制大学や学習空間、企業の人材育成など学びの秀でたエリアに。



国際学会やビジネス、研修旅行で、多くの外国人が宿泊

学生たちが学ぶ  
大学キャンパス。  
国際文化を学び、  
ショッピング・カフェを満喫

歌舞伎のまちのルート「安宅の関」



風情ある町家では、外国人がお茶、お花、和食など、日本文化を堪能します。

勤進帳のふるさと「安宅」。古くは北前船で栄え、歴史を感じる街並みが美しく、「難関突破」の Powersポットに、全国から人びとが集います。

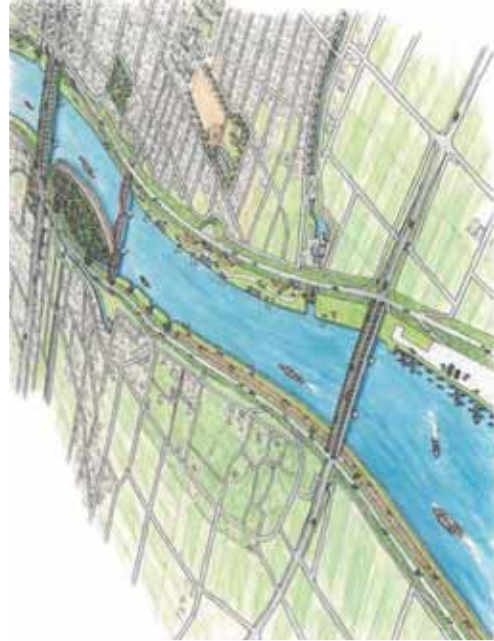
## 受け継がれた小松文化で彩られる小松駅西エリア

町衆の華、粋、人情が、「こまつジャパン」として、世界から評価されます



世界中を魅了するこまつの子どもたちの熱演

子どもから大人まで、歌舞伎の演者・演奏者



安宅から川上に舟で進めば、悠然と浮かぶ「小松天満宮」



江戸から今に歴史をつなぐ「曳山子供歌舞伎」250年子どもたちのお芝居が観る人びとを惹きつける

「Komatsu Japan」



## 「空・陸・海」抜群のアクセスメリット



日本、そして世界とつながる北陸のハブ  
物流の進化で、人・物・文化はさらに対流

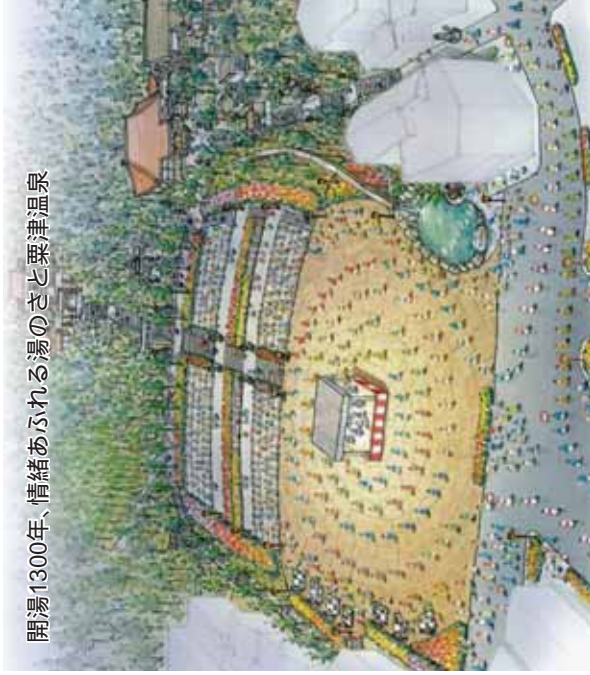
## 日本屈指の産業集積と 高速交通ネットワークで、広域の、 そして北陸の成長をリード

こまつは、古くは2300年前の弥生文化、1500年前の古墳、加賀之國の国府も立地していた広域の拠点

物流もさらに進化。科学技術、人材育成、産業、医療、行政などの都市機能が拡充し、広域の発展の基幹アクセス

空港、新幹線、高速道路の集積が新たなビジネス・文化を創生します。

開湯1300年、情緒あふれる湯のさと粟津温泉



開創1300年、四季それぞれ美しい那谷寺。歴史あふれる南部エリアは、来訪者の心と体をいやします。

古代の王たちが愛した勾玉・管玉の石とロマンは、時を越え、国内外の人たちを魅了



2300年の古のロマン勾玉

## 南部エリアの交通拠点「粟津駅」

歴史観光だけでなく、ものづくりビジネス、環境王国、高等教育の玄関口として、南部エリアの発展をリードします。



東西の移動もスムーズ

空港とも連絡

# 日本一「たくましく」まちに

こまつの未来を拓くのは、  
創造とサイエンスに富んだものづくり。  
豊かな自然環境のなか、新しい技術が広がり、  
まちが変わる、くらしが変わる

## 日本でも秀でた「たくましくものづくり」のまちに



機械産業はさらに集積し、日本はもとより環太平洋地域を代表するクラスターが形成されます。

空港周辺では、世界に開かれた航空・輸出・物流産業が創出されます。

大学が行つこころが、企業・市民団体の研究をリードします。

COC (Center Of Community) 地知の拠点として、地域志向で教育・研究・地域貢献を進める大学



で、争力が



活動





海外の「こまつもんショップ」

産業技術力と乗りもの、石文化、伝統工芸の技、美味しい食などにまつが得意とする、先進の産業観光」が人びとを魅せます。

伝統産業「九谷焼」。欧米の海外アートとのコラボで新しい価値を創り出し、マーケットは世界に広がります。

地産地消で培われた食ブランドは、外国の人たちからも高い評価を与えられます。

白山・大日山の伏流水で育まれる農林水産物。世界的企業や大学とのプロジェクトで、ICT利活用やバイオマス活用が進み、たくましい農林水産業に発展します。

## 世界を舞台に 「こまつブランド」が展開します



3D技術・ロボット・ICT産業が高度化・効率化し、飛躍的に高まります。



## 女性の活躍で、まちがやちしく、 明るく、そして美しく

デザインやアートで、女性の感性・センスが活かされます。

モバイルワークで、新しい働き方が広まり、また、産業の自動化・ICT化で、女性の活躍シーンが創出されます。

医療や福祉など暮らしに寄り添ったあたたかいビジネスモデルが新たに展開されます。

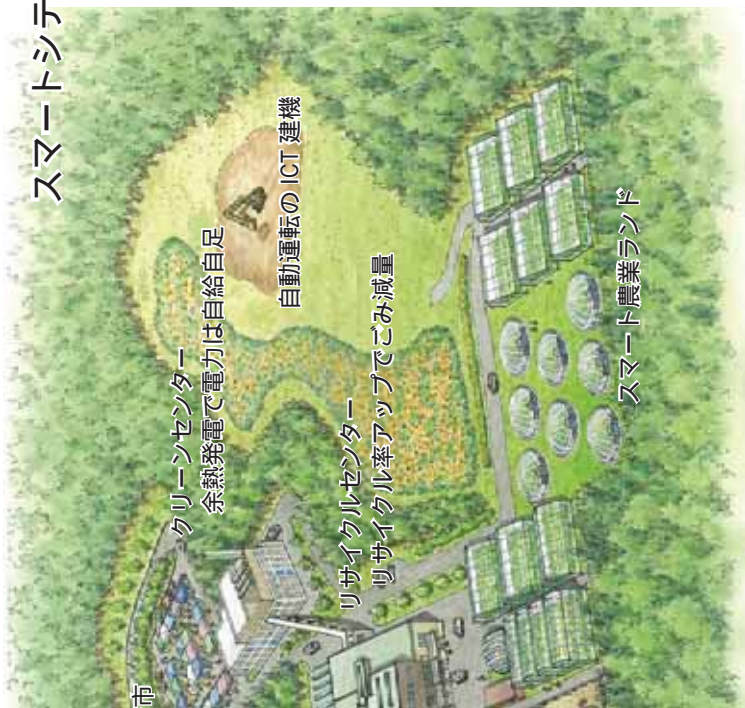
起業・就業、そして、復職サポートが充実し、日本トップのワークライフバランスが実現します。



サイエンスヒルズでは企業ブレゼンや大学のCOO

# まちに、ひとに、地球にやさしい「スマートシティ」に

## スマートシティの実践拠点「エコロジーパークこまつ」



創エネ技術が、家庭や学校、オフィス、工場で活用され、CO<sub>2</sub>排出も大幅に減少します。

木質バイオマスの利用拡大で林業発展と森林保全を両立。治山・治水はもとより、美しい里山・奥山の風景も守られます。

豊かな自然と技術が調和し、次世代に環境が引き継がれます。



### バイオマス循環



エコビレッジ エコの体験活動、実践学習

### 新エネルギー活用



ごみ焼却の余熱を利用した野菜の温室栽培、ICT栽培で、収穫量や収穫時期がコントロールされます。

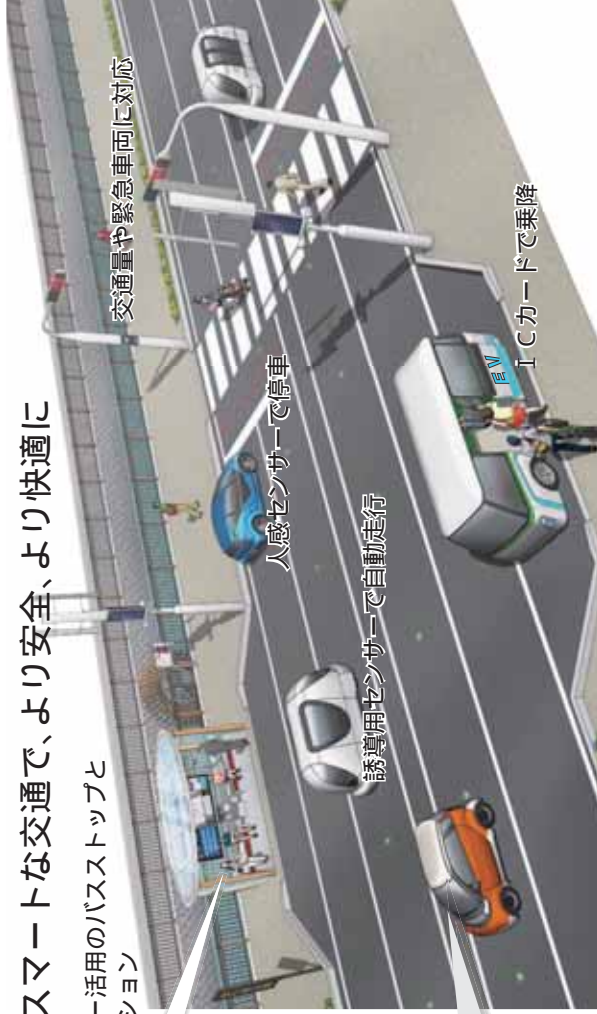
通年栽培・通年出荷が可能となり、スマートにまつ野菜が全国に流通します。





自然エネルギー活用のバスストップと  
インフォメーション

スマートな交通で、より安全、より快適に

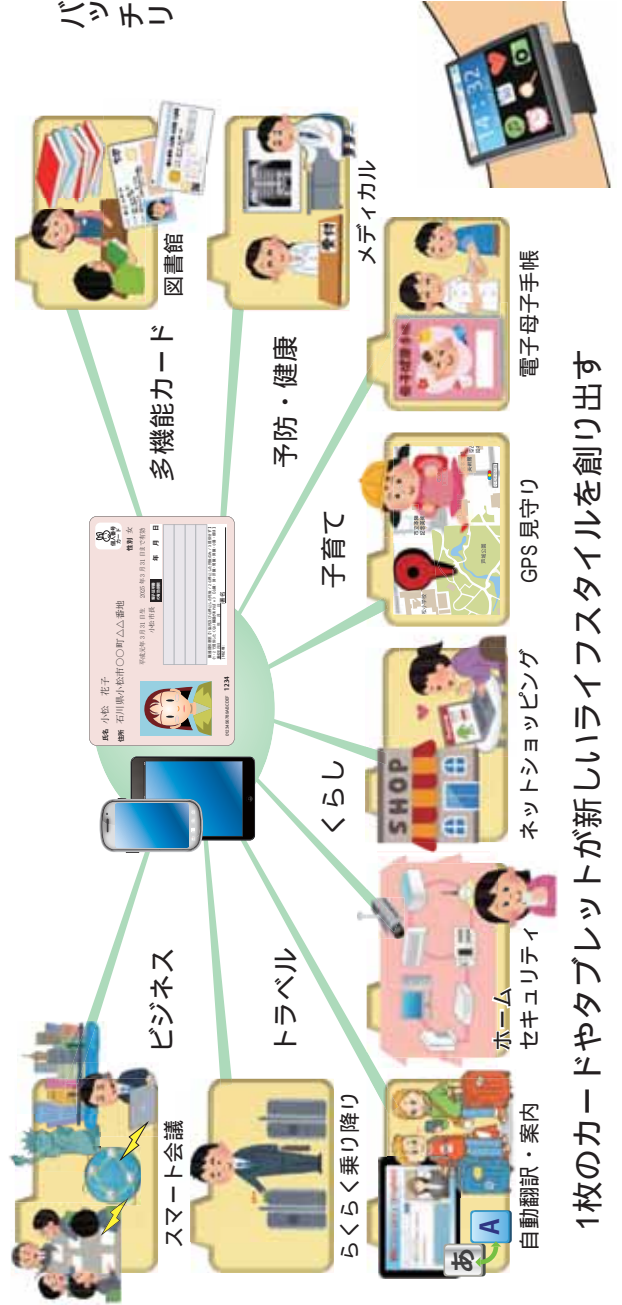


自動でドライブ・ナビゲーション・事故防止



## ICT (情報通信技術) がまちに広がり、夢を広げる

もっと便利、もっと安心、もっと楽しいスマートエシヨイライフ



買い物、病院、旅行、子育てなど、暮らしの  
シーンはキャッシュレス・ペーパーレス

ウェアラブル型で健康管理や見守りも  
バッチリ

1枚のカードやタブレットが新しいライフスタイルを創り出す



# 日本一「こころよし」まちに

予防先進を合言葉に、家族みんなが幸せな、  
新しいくらしがはじまる。  
恵まれた水辺や里山を楽しみ、  
二世世代の笑顔いっぱいのもち

## いきいきシニアの知恵と経験が生きる、健康長寿の全国モデルに



自然豊かな里山に、シニアの予防活動拠点  
テーマは「農林業・食・健康・仲間」

バイオマス温泉

シニアレストラン

スポーツ健康ゾーン

クラインガルテン

理を味わう



温泉熱を利用した農園ではエゴ野菜を収穫します。

エゴ野菜は、シシトウや山菜など、山の幸とともに、オシャシなしストロウで提供されます。



## シニアは仕事、趣味、社会貢献で大活躍します

美味しい食と健康づくり、疾病予防で健康長寿。農業や観光、技術指導など仕事で活躍します。

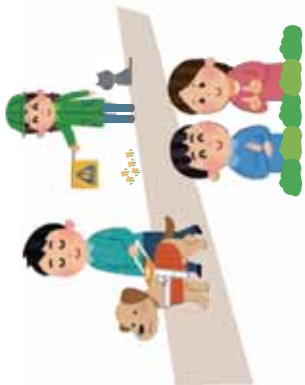
子どもたちの見守り活動はもちろん、思いやりとやさしさを教える人生の達人です。

地域の伝統文化を伝えるシニアは、まちの博士。地域貢献を満喫します。

## 地域の絆とやさしさで、 家族みんなが安全安心

河川改修などによるハードと、  
家庭・地域・企業・学校などが一  
体となったソフトの取り組み。  
この地域防災力が、いざという  
時、まちを防災・減災に導きま  
す。

思いやりとやさしさでみんなが  
マナーアップ。ICT活用で、健  
康や在宅介護、そして、防犯、交  
通安全、火災予防もあんしん



## 地域とくらしを結ぶ交通機能が、 家族のくらしを支えます

在来線やバス、タクシー、レンタカーなど、交通  
機能が多様に、そして、充実し、くらしやビジネ  
ス、観光など、住む人や訪れる人の利便性が高ま  
ります。

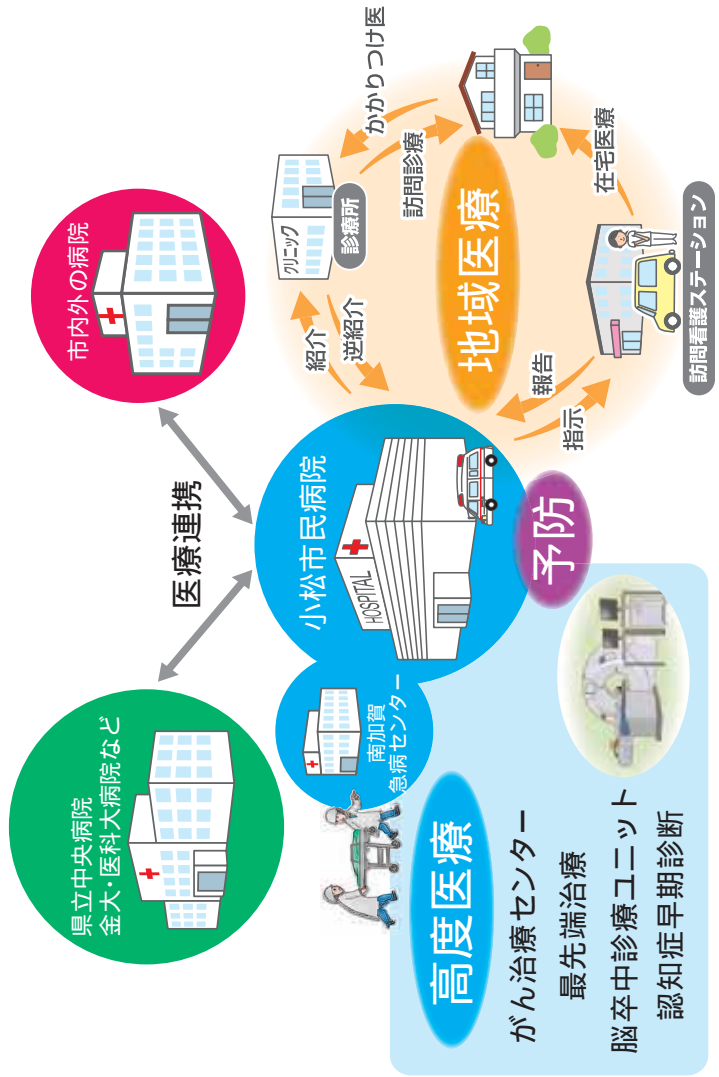
小松駅や交流拠点を中心に、公  
共交通が地域を結びます。また、  
地域力を活かし、独自で運行す  
る交通機能も広がり、みんなの  
くらしを支えます。

## 三世代・四世代がこころも、「予防先進」のこまつ

市民病院は、生活習慣病など予  
防保健の広域拠点として、全市  
民の健康をリードします。

高度医療・救急医療でも拠点と  
して、地域医療などとも結ばれ、  
切れ目ない医院・薬局・福祉施設  
などのネットワークが三世代の  
くらしを支えます。

健康や福祉医療、介護などの身  
近な相談窓口、地域健康福祉セ  
ンターが、家族や地域の安心を  
高めます。



ふるさと料

## みんなで子育てを喜び、育み、子どもたちの笑い声があふれます

妊娠から出産まで、地域や医療機関などまち全体がサポートし、新しい命をみんなで喜び合います。

子育てや食育、発達など子どもの成長に応じた日本トップの相談・サポート体制が、親子の絆を高めます。



にまつは兄弟姉妹がいっぱい。豊かな自然や文化、そして心あたたかい人びとに囲まれて、子どもたちははつらつと育ち、まちは、元気で明るい風が響きます。



## 美しい花の彩り、清らかな水辺、豊かな里山 ～花・水・樹～

### 自然が織りなす風情と品格が、人びとの心を豊かに

白山眺望駅から木場潟へ向かう彩り豊かなアプローチロード。その美しい道を、自動走行のEVバスが行き来します。

湖畔のビューテラスに目を移せば、外国人カップルが幸せならエンディング。

水郷木場潟は、北陸を代表する景勝地、日本の絶景の道100選での健康づくり、そして、環境教育の拠点として親しまれます。

にまつは、川・湖・海、水辺の美観と親水空間の楽しさを合わせ持つウォーターフロントに。

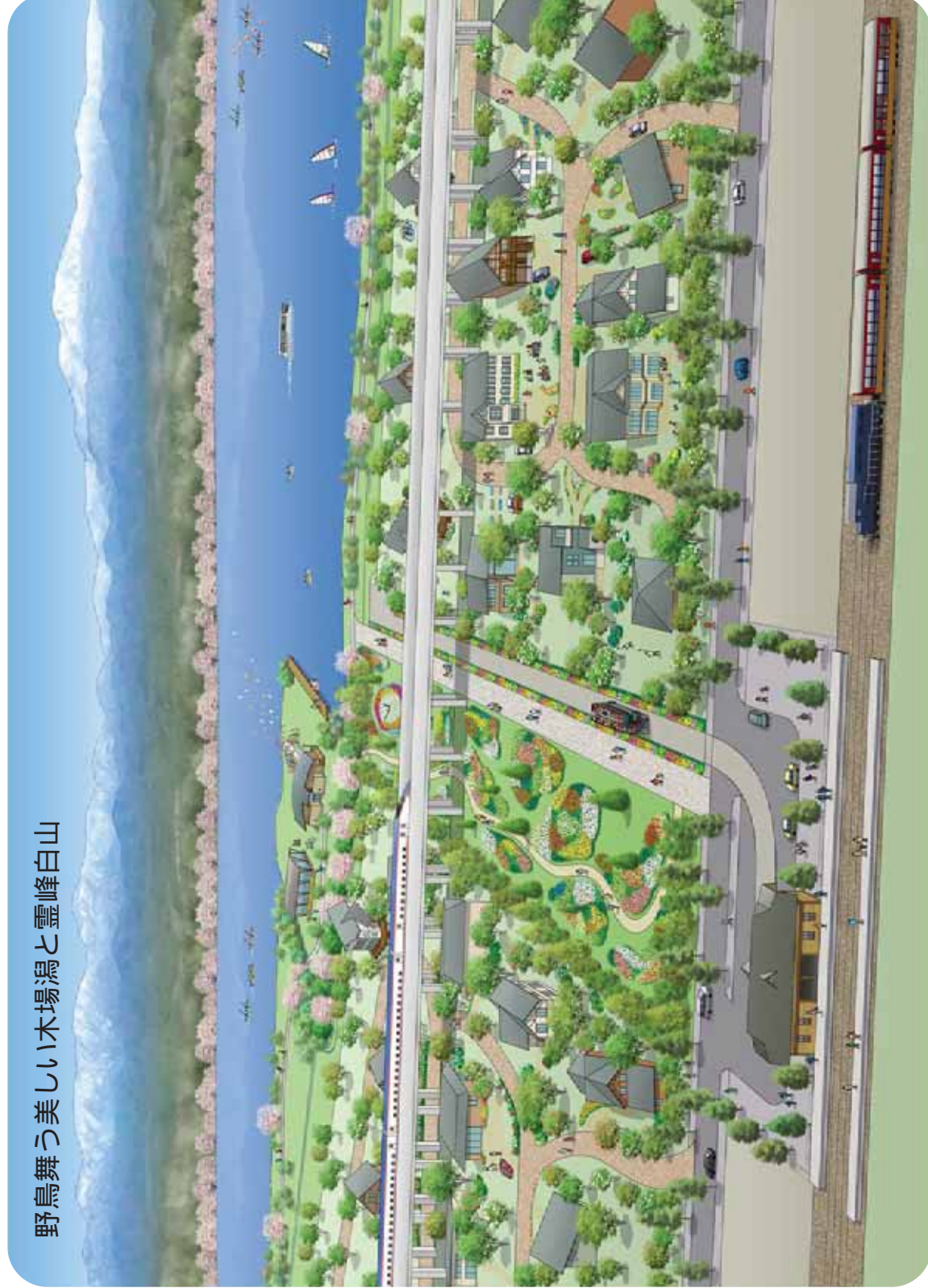


日用苔の里

木場潟から霊峰白山を望めば、その手前には、特色ある里山が南北に連なります。

樹木や草花、昆虫などの自然資源、価値の高い石文化、鉱山などの産業資源。日本遺産に相応しいお宝がいっぱい。「環境王国にまつ」はネイチャーシアターの代名詞です。

野鳥舞う美しい木場潟と霊峰白山



白山眺望駅は健康レクリエーションのメッカに。ミシュランガイドブックをもった国内外からの来訪者でにぎわいます。



霊峰白山に見守られてウエディング



こまつの特徴を活かした森林浴・星空浴で心身をいやします。

苔の緑、杉の木立、古民家のハニーが美しい地域では、外国人や大学関係者も集まり、自然の中での学会や研究活動も展開されます。

# 日本一「はつらつ」とした ひととまちに

たゆまぬ「ひとづくり」がまちの未来を創る。  
はつらつとした人びとが、  
世界でふるちとで輝き躍動する

## 子どもたちは夢をもちビジョンを描き成長します

幼児教育の中心は「こども園」。  
自然・文化体験、工作、英語など  
子どもたちは、楽しみながら学  
び育ちます。



実践的な飛行機の技術教室

「智仁勇」をモットーに、  
子どもたちは大好きな学校で  
元気に楽しく学びます



一日中、英語で授業。  
先生も間違えて  
日本語を使ってた(笑)



家族みんなで、大人みたいなお仕事体験。  
お金の仕組みも勉強したよ。  
将来は何になるのかな。



給食はキッズレストラン。  
環境王国のお野菜、ホント美味しいね。

今日は、飛行機ミュージアムにお出かけ。パイロットになったり、飛行機つくったり、すごくおもしろい。







サイエンスヒルズで宇宙と交信します

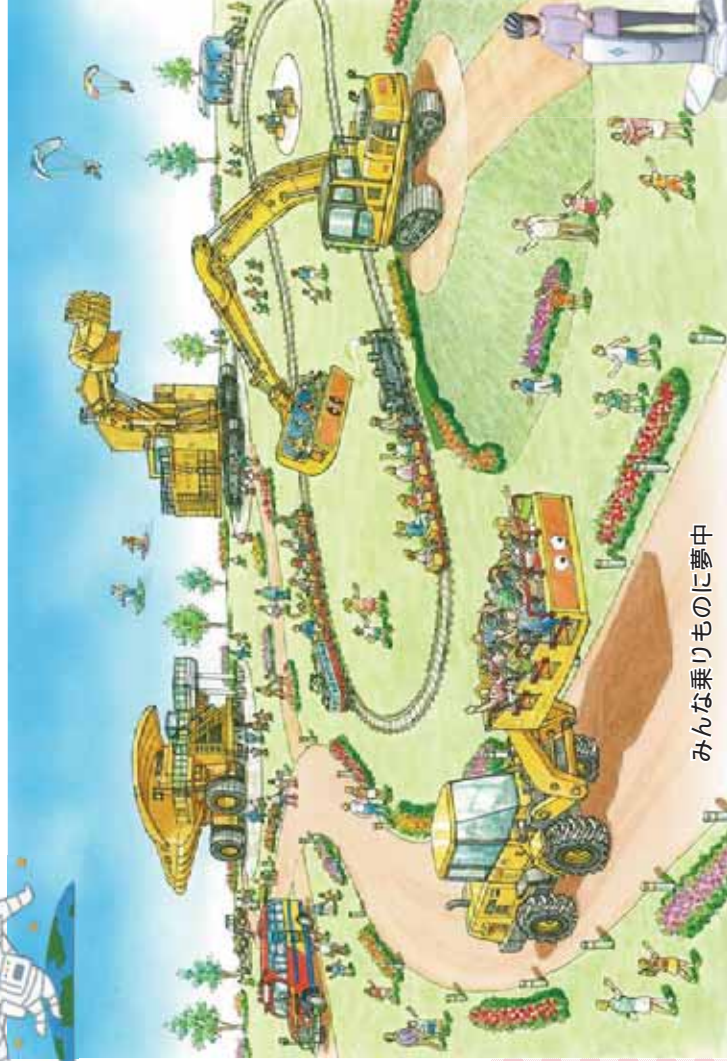


ものづくり技術を通して、  
技術者や研究者になる夢を描きます

企業の高い技術と乗りもの。好奇心を高める科学とからくりで、世界中、日本中の子どもたちを惹きつけます。

サイエンスヒルズは、大学や宇宙航空研究開発機関、国立天文台と連携し、宇宙をめざす子どもたちを育みます。

個性を伸ばし、高い独創力を身に付けた子どもたちが、将来、世界で輝きます。

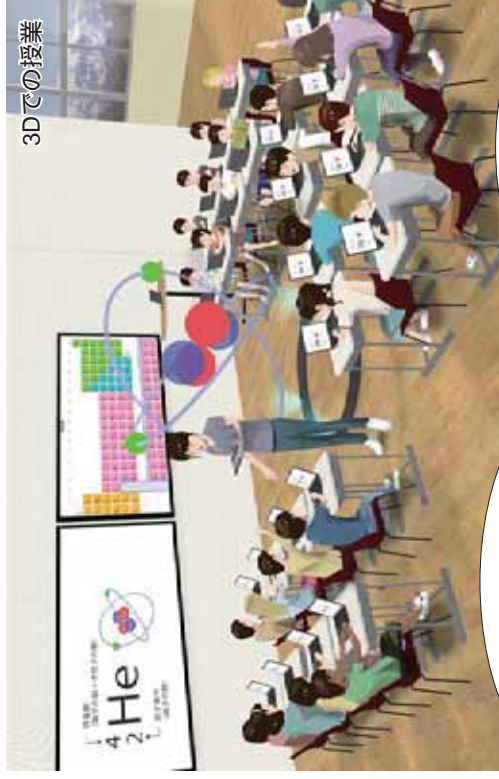


みんな乗りものに夢中

## 「世界の子ども科学技術都市」に多くの子どもたちが集まります

学校の給食は、一流シェフが考えた、地元食材によるメニュー。美味しさはもちろん、食育、栄養にも優れ、子どもたちにも親にも大人気です。

学校では、芝生のフィールドによる体力づくり、大学や企業とも連携した理科科学、国際理解や国際交流、ふるさとの伝統文化など、特色ある教育が充実し、子どもたちは、多くの仲間とともに、学び成長し、協調性や習性、勇の精神も育みます。



3Dでの授業

学校っておもしろい。  
ミクロの世界を3Dで体感。  
科学って本当に不思議。



タブレットって便利。  
分らないことをすぐに調べたり、映像を観たり。



## 世界とふるちとで活躍する

### グローバルな人材と技術が育まれます

幼児教育からはつらつ学習ま  
で、一貫したひとつづくりが充実  
します。

大学教育では、インダストリア  
ル系、メディカル系、インター  
ナショナル系の特色で、海外か  
らの留学生や海外への留学も多  
く、グローバルに人材を輩出し  
ます。

地元企業とも連携し、地域の医  
療と産業を担う若者が育ちます。  
工口生産や健康保健、農林水産  
業など、時代に必要な知識と技  
術も身に付けます。



小松駅前キャンパス



農業体験などのイン  
ターシップを通して、  
学生たちも仕事とふる  
ちとに共感します。

大学では、休日や夜間に学習講座が開催され、女  
性やシニアなど、沢山の市民が訪れ、地域に身近  
な「人材育成拠点」となります。

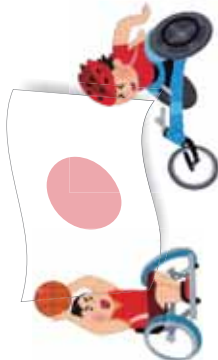
## 国際舞台で躍動する

### ふるちとの

### アスリート、アーティストたち

2020年、東京オリンピック・  
パラリンピック開幕。医科学ト  
レーニングで心身を鍛え、技を  
磨いたふるちとのアスリートた  
ちが、日本代表として躍動し、そ  
の姿に子どもたちは熱狂します。  
末広スポーツパークは、スポー  
ツ集積ゾーンとして機能を高  
め、数多く交流大会や合宿も開  
催されます。

次の日本代表をめざし、子ども  
たちが挑戦した汗と感動の涙を  
流します。



## 芦城公園周辺は感性

### 豊かな「アートの社」に

芦城公園は、音楽、芸術の感性と  
センスを高める空間に。

海外との文化交流も盛ん。才能  
を开花させたアーティストたち  
が世界に羽ばたき輝きます。

国際的なスポーツ大会やアート  
展が開催。トップアスリート、  
トップアーティストの技術やセ  
ンスを学び、子どもたちや若者  
が夢を描きます。



## まちの総合力の源は、市民力と地域の絆。 オールこまつの「共創」でまちが成長し、 ふるさとを未来くつなぎます

住む人、訪れる人、全ての人がひと  
と地域や企業、学校、団体など、  
みんな一緒に、ふるさとこまつ  
に恋し、ふるさとこまつを愛し、  
支え合い、高め合いながら、ふる  
さとを共に創ります。

そして、老若男女、私もあなた  
も、みんなはつらつ、笑顔いつば  
いのふるさとを未来に引き継ぎ  
ます。



地域の拠点「はつらつ学習センター」

## 地域でも学び、 地域コミュニティの 活力が高まります

子どもからシニア、外国人家族  
も集まり、市民交流と市民学習  
が活性化し、絆が強まります。

ライフステージや夢に応じた学  
びの機会と機能が充満し、まち  
の活力を高めます。



# V

## 10年後の素敵なこまつをめざして

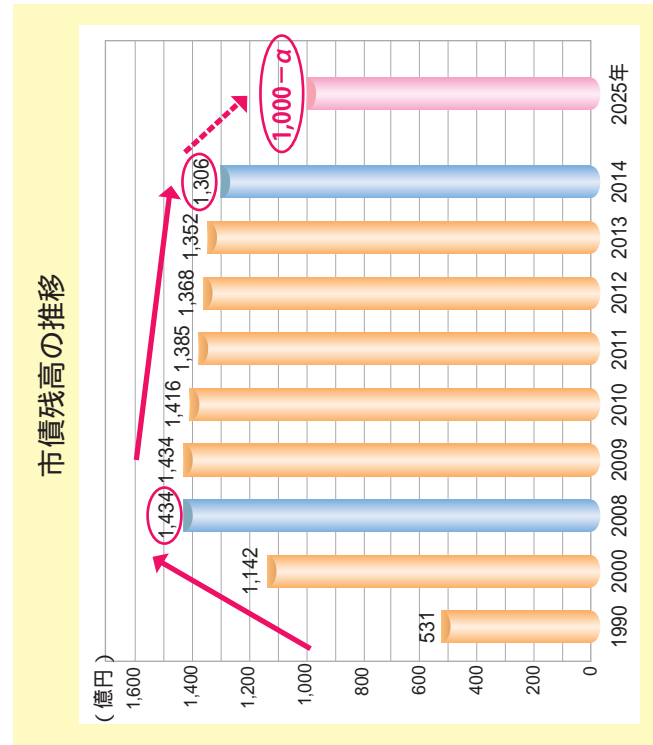
### まずは、行財政改革。たくましく財政、市民から信頼される市役所へ

財政の健全化は、次世代への大切な約束

- 市債残高の減少を継続実施し、1000億円の大台を切ります
- 民間へのシフトを進め、市の職員（消防職・医療職・教員を除く）をさらに10%以上減らし、520人にします

市の持続と成長をリード。

- そして、皆さんに身近な市役所へ職員は知識と技量をレベルアップし、各分野の専門家集団に機動的で身近な組織に変わります
- 民間の経営感覚で常に仕事を改革し続けます



### これからは、広域化が鍵。連携した取り組みを広げ進めます

行政だけでなく民間レベルの広域連携を加速

# VI

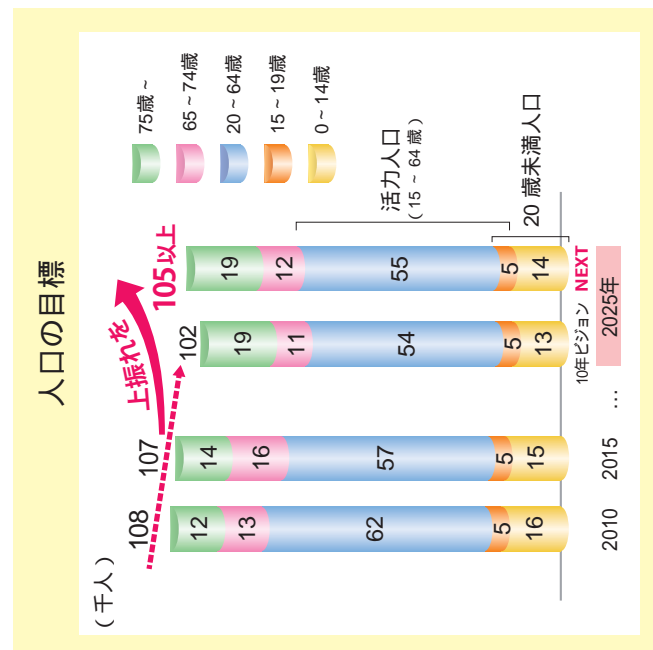
## NEXTビジョンへの主な目標値

日本の人口減少と超長寿化は

- 世界に類を見ない速さで進展します
- 介護や医療などのコスト、税金など様々な分野での影響も予想されます
- そんななか、こまつの持続的な成長と市民の皆さん一人ひとりの満足度・幸福度を追求していきます

人口10万5千人以上をめざします

- こまつの成長を引っばる活力人口は6万人以上、未来創りの大きな力となる20歳未満人口は2万人キープへ



# チャレンジ2025

代用特性

9つの  
目標数値

3つ ▶ 4つのまちづくりコンセプト  
こまつは日本一「おもしろい」「たくましい」「こちよい」まち  
「はつらつ」としたひととまち  
4つ ▶ 5つのまちのブランドカプルのテーマ  
「歌舞伎のまち」「科学とひとりづくり」「乗りもののまち」「環境王国こまつ」  
「Gem & Story of Stone ~ ジェムと石の物語 ~」  
でチャレンジ!

## 5 ようこそ小松プラス5000

こまつへの転入者5000人へ(2014年 / 3199人)  
新たな人びとが集う成長のまち



## 6 笑顔いっぱい子宝1.8

合計特殊出生率1.80へ(2012年 / 1.69)  
子どもたちの笑い声と夢があふれる



## 7 いきいきシニア75%

75歳以上で介護認定を受けていない人の割合75%  
(2014年 / 66%)  
健康長寿の模範都市



## 8 スマートリサイクル33%

リサイクル率33%で全体の1/3に(2014年 / 19%)  
エコライフでスマートシティ



## 9 住みよさランキングTOP10

住みよさランキング10位以内へ  
(2015年:29位 / 全国813市区中)  
家族みんながこちよい



## 1 ものづくり産業力20%UP

製造品出荷額等7000億円へ(2013年 / 5653億円)  
うち6次産業300億円(2013年 / 82億円)  
バランスのとれたたくたくましいものづくり



## 2 グローバルチャレンジ50000

外国人の宿泊者数50000人へ(2014年 / 5216人)  
世界とつながる国際都市



## 3 おもてなしゲット700万人

交流人口700万人へ(2014年 / 380万人)  
アクセスと地域資源を活かした交流拡大



## 4 将来負担を軽減、1000億円-α

市債残高1000億円未満へ圧縮(2014年 / 1306億円)  
次世代への大切な約束です



# 「温故知新」…感謝！そして未来へ！

私たちのまちは、歴史が深く、時代に応じて成長してきた素晴らしいまち

## 古代中世の南加賀は歴史の交差点

2万年前の後期旧石器時代の八里向山遺跡から出土したナイフ形石器  
北陸を代表する弥生時代の八日市地方遺跡（重要文化財指定）  
南部丘陵地産出の碧玉は、高度な技術で装飾品に加工され、日本各地の王などを魅了  
矢田野エジリ古墳から出土の人を乗せた飾り馬と馬飼の埴輪（重要文化財指定）  
古代には、北陸地方最大規模の製陶・製鉄地域を形成  
律令体制で最後となる「加賀国」が誕生  
この地は政治・経済・文化の中心に  
中世の動乱の時代、小松を舞台に人の世の無常を描いた物語が誕生



## 民が育てたまち小松

利常公が殖産興業（加賀絹、小松瓦、畳表など）  
農業・物流・文化を振興  
そして町衆文化が開花（曳山、お茶、寺社など）  
現在のまちの原型がスタート  
日用杉を代表に、木材の主産地  
現在の木場から、水運を利用して京都の寺院にも利用  
北前船（交易、食文化）の海運業で繁栄し、  
今は航空輸送で栄える小松空港  
鉱山は今や世界でも活躍する機械産業へと進化  
先人たちは、知恵と工夫で多くの苦境を乗り越え、  
このまちを残してくれました

### ■問い合わせ

#### 小松市 総合政策部 経営政策課

Komatsu City Strategic Planning Div. Policy Planning Dept.

〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地

TEL 0761-24-8037 FAX 0761-21-0285

E-mail kikaku@city.komatsu.lg.jp

2019年1月31日北國新聞朝刊

## SDGs推進を確認

### 小松市と金大、6事業で連携

包括連携協定を結ぶ小松市と金大の連携推進会議は30日、同大で開かれ、SDGs（持続可能な開発目標）の推進や公共交通の自動運転化など、新たに6事業で連携して取り組むことを確認した。

市は内閣府の「SDGs未来都市」の認定を目指しており、木場潟の水質改善調査など従来の連携事業を、SDGs推進プロジェクトに位置付ける。公共交通の自動運転化では、JR小松駅と小松空港を結ぶ自動運転バス導入に向け、金大から助言をもらう。

会議には約40人が出席、和田慎司市長、山崎光悦学長があいさつした。市がこれまで47の連携事業について進捗よく報告した。

2019年1月31日北陸中日新聞朝刊

## 「持続可能な開発」 推進で協力を強化

### 金沢大と小松市

金沢大と小松市の連携推進会議が三十日、同大角間キャンパスであり、国連が解決を目指す「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進などで協力を強化していくことを確認した。

両者は二〇二二年一月に包括連携協定を締結。国際交流や自然環境、まちづくりなどの分野で協力している。今後はSDGs推進のほか、公共交通の自動運転化やICT（情報通信技術）を活用した公共インフラマネジメントといった六つのプロジェクトを新たに進める。

山崎光悦学長や和田慎司市長ら四十人が出席。会議に先立って、同大の教育研究報告もあった。

（竹内なぎ）



あいさつする山崎光悦学長（左）＝金沢大で

2015年11月18日北國新聞朝刊

# 水質浄化へ水門活用

## 小松市と金大 木場潟で実験



連携して小松市の木場潟、水門は木場潟から約1.5km、下流にある。小松市と金大は、前川水門を使った新たな取り組みを始める。水門を有効活用することで湖内の水の循環を良くし、水質汚染物質の増加を抑える狙い。来年11月から1カ月間、実証実験を行い、水質の変化を分析して効果を検証する。

前川は木場潟から流出し、水門は木場潟から約1.5km、下流にある。市によると、実験では水門を閉鎖した上で、今江湖排水機場のポンプで水門前の水をくみ上げて下流に送る。こうすることで湖面の水位が下がり、水の流れが良くなる。水質を汚染する水中の炭素や窒素などが増えるのを防ぐ効果があると考えられるという。

湖内の20カ所と水門の上流、下流の各地点で、環境基準の指標である化学的酸素要求量(COD)の数値などを測定する。実験の実施前と実施中、実施後を比較して水質の変化を分析する。

木場潟のCODは1990年、全国の湖沼でワースト2位となった後、改善しているが、近年は改善のペースが鈍っている。

小松市と金大は2012年に包括連携協定を締結し、木場潟の水質浄化に向けた研究に取り組んでいる。

小松市と金大が連携して水質改善に向けた新たな実験が行われる木場潟  
—北國新聞社へリ「あすなろ」から

2019年2月26日北國新聞朝刊

## 小松市と金大、効果検証

# 木場潟 雨で浄化

水質改善の取り組みが続く小松市の木場潟で新年度、雨の浄化作用を調べる実験が始まる。小松市と金大環日本海域環境研究センターが連携し、雨量と水質のデータを蓄積して効果を検証する。上流や湖に雨が降り注ぐと、水が循環して一時的に水質が向上くとされており、科学的な裏付けで「天然の浄化システム」の確立を目指す。

### 新年度から常時観測

市によると、木場潟の雨量から流れ込む水で湖の循環を良の常時観測は初めてで、既にくして水質悪化を防ぐことが湖と上流の日用川に計測機をできないか検証している。設置した。採水機も設け、雨15年と17年に市が国、県とが降った際の水質の変化を分析する。数年かけて雨量と水位を下げること、環境基準質のデータを取りそろえ、最終的には雨が水質に及ぼす影響を割り出す予測システムを認された。

ただ、湖の水は農業用水に活用されるため、水質が悪化する時期と重なる農繁期はむる。市は2015年から、湖やみに水位を下げることで湖の下流にある今江湖排水機場を下げ、その一方で上流かを確認した上で、農業に影響

を及ぼさない範囲で水位を調整できるかどうか探る。担当者には「まずは自然の力による水質改善効果を調べたい」と話している。

木場潟は高度成長期に伴う生活用水の流入で水質が悪化。1990年にCODが基準値の「3」を大幅に上回る「13」となり、全国181カ所の湖沼中、ワースト2位になったこともある。それ以降、官民が一体となった水質浄化の取り組みが進められている。



雨の浄化作用を調べる実験が始まる木場潟  
—2月、小松市内



2017年7月3日北國新聞朝刊

# NZカヌー一選手が指導

## 小松・木場瀉で強化合宿中

### 小中高生50人が参加

小松市の木場瀉で強化合宿を行っているニュージーランド(NZ)カヌーチームの男子選手5人は2日、木場瀉カヌー競技場で、市内の小中高生や住民との交流イベントに臨んだ。子どもたちは、2020年東京五輪・パラリンピックでの活躍が期待される若手選手から指導を受けて技術向上に励んだ。猛練習をこなしているNZ選手は和服の着付けや三味線、茶席も体験し、ひととき日本文化に親しんだ。

#### 着付けや三味線も体験

交流イベントには、小松・小松市立、小松大谷の各高ジュニアカヌークラブに所属する小中学生や南郡中カヌー部員、小松、小松商、

参加者は男女や種目別に分かれ、NZ選手から、パドルで水を効果的に握るフォームや、カヌーがひっくり返った時に素早く元に戻す方法などを学んだ。NZ選手は参加者と共に木場



三味線の演奏を体験するNZ選手  
 小松市のこまつ曳山交流館みよっさ  
 小松のジュニア選手に指導する  
 NZ選手  
 小松市の木場瀉カヌー競技場

瀉へこぎ出し、力強いパドルさばきを披露した。  
 吉本美海さん(小松市南郡中3年)は「パドリングを褒められてうれしかった。教えてもらったことを練習して全中で入賞したい」と決意を新たにしていた。麻生さん(同市串小5年)は「代表選手と一緒にカヌーをこげるなんてすごい。とても速かったと話した。子どもたちとの交流後、NZ選手は木場町内会が用意した餅つきに参加し、住民の掛け声に合わせて、きねを振るった。つきたての餅

にきな粉とあんこ、大根おろしをまがして食べた。  
 NZ選手は、呉服店「きぬ工房神田」(同市八日市町)で、はかま姿になった後、こまつ曳山交流館みよっさで三味線の演奏を体験し、抹茶を味わった。マックス・ブラウン選手は「ギターと違って音が高く、とてもクール。日本の伝統文化に触れることができ、良い経験になった」と話した。  
 先月26日に始まった強化合宿は今日6日までで、NZ選手は東京五輪前まで毎

年、木場瀉で強化合宿を行う。

2018年9月13日北國新聞朝刊

# 外国人5人を初認定

## 小松市消防本部「しみん救護員」



## 災害時 地域のリーダー役に

小松市在住の外国人5人が12日までに、市消防本部の独自の制度「しみん救護員」に認定された。外国人の認定は初めてで、今後、5人の外国人防災士らとともに外国人に向けた防災指導役を担ってもらう。市内在住外国人は8月時点で2179人と過去最多となっており、市消防本部は市民と協力して住みやすいまちづくりを進める。

しみん救護員は市消防本部が2011年から始めた制度で、災害時に負傷者の応急手当てを行う技量や知識を備え、地域のリーダー役を務める。3日間にわたる実技や座学の講座を受講し、試験に合格すると認定される。現在、市内全246町内会のうち120町会475人が登録されている。

今回、市国際交流協会の勧めもあり、ブラジルやコロンビア、中国出身の男女5人が初めて講座を受講し、認定された。今後、災害時に地域の指導役を務めるだけでなく、日本語が不得意な外国人に災害情報や応急手当ての技術を分かりやすく伝える。

市内の外国人登録者数は、統計の残る1997年が1072人で、徐々に増加した。08年のリーマンショックなどで一時減少したが、14年以降増加に転じ、8月時点で2100人を超えた。

市国際交流協会の中村知

応急手当て技術を披露する田中アツシ（左）と小松市南代小

恵会長は「まだまだ日本語が不得意な外国人は多い。国籍を超えて地域の役に立つ人材になってほしい」と期待している。

しみん救護員となったコロンビア出身の田中フリア

ナさん(29)は「救命措置の習得は難しかったが、認定されたことで自信がついた。災害情報は専門用語も多いので、分かやすく他の外国人に伝えたい」と語った。